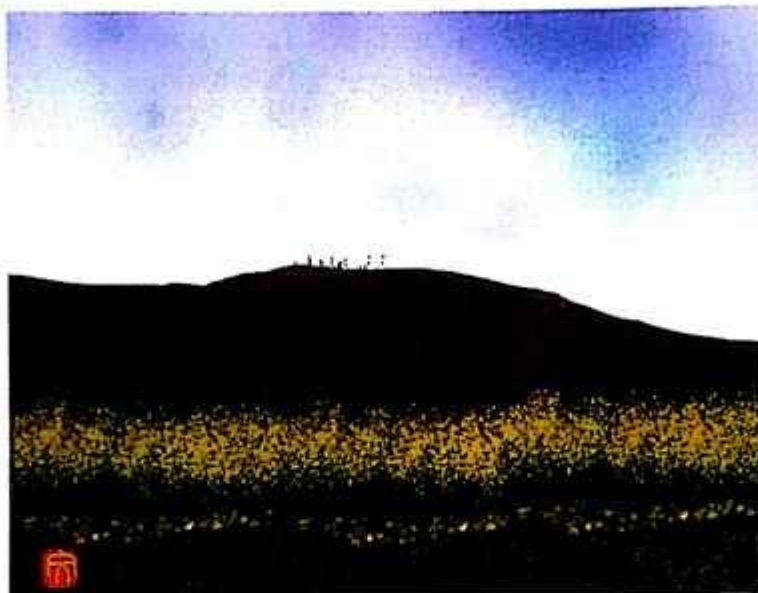


3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

4月

日	月	火	水	木	金	土
						1 2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30



菜の花と生駒山 (西村文男)

● 残雪の山歩き	榎上俊雄	2
例会コース		
● 残雪の下谷山	編集室	3
山行計画		
● 個人紀行		
● 鳩吹山	森木伸人	16
● 静寂の藤原岳	海老原睦治	18
● 岡崎の里から大文字山	木村太郎	20
連載		
● 三角点を訪ねて「朝影山と稲村ヶ岳」	磯部 純	23
● 標高による山の紹介 △△17の山	松田敏男	26
● 文学歴史ハイク「貴船に和泉式部を訪ねて」	松永恵一	34
● 「青春18きっぷ」での日帰り山行 東海道本線の山	金谷 昭	38
● 旗振り通信の研究「テレビで紹介された旗振り通信Ⅲ」	柴田昭彦	42
レポート		
● 山の地名を歩く「兎岳」	西尾寿一	30
● 「遺難体験者手記」奈良県警察本部より		31
コースガイド		
① 滝谷山・大見晴・万野	磯部 純	40
ギャラリー		
● 近江の山 ―花暦― 陽春	山本武人	28
● フォトエッセイ「春分」	松永恵一	32
● 湖西の春	武市通治	36
会員投稿		
― 芝森雄・西村敏夫・長宗清司		62
山行報告		
新ハイサービステーション		47
原稿募集・会員募集・新入会員紹介・広告案内		64

残雪の山歩き

檀上 俊雄



イワウチワ (トクワカソウ)

3月ともなると日が長くなり、冬型の気圧配置も長続きせず、時おり移動性高気圧がやってくる。新雪の降る回数も量も減ってきて、積もった雪は次第にザラ目状となり締まってきて、歩きやすくなる。

麓の村では雪解けが進み、登山口への車道も通行可能となる。奥深いやぶ山などにとっては、一年で最も登りやすく、残雪期の山歩きを存分に楽しむことができる。

日本海フロントというべき中央分水嶺には積雪量が多い。関西で1000mを超える山は氷ノ山から那岐山にかけての峰々、余呉の高時川源流から越美山地に限られていて、ほとんどの山は1000m未満の低山である。この時季、中央分水嶺の山にも雪解けが始まり、急速に春の装いとなる。

稜線は残雪の山であってもマンサク・キフシ・タムシバなどの花が彩りを添えてくれ、山裾では雪が解けて地肌が出た所から山野草が花を開く。春一番のフクジュソウなどは石灰岩の山である鈴鹿北部に譲るとして、雪の多い中央分水嶺ではイワウチワ(トクワカソウ)が圧倒的な広がりを見せている。

関西の中央分水嶺では、京阪神から交通の便のいい残雪の山として、高島や余呉トレイルの山々が白帰りで楽しめる。ここにはトレイル開通以前、やぶ山三重として知られていた三重嶽や余呉の名峰上谷山などがあって、関西岳人の注目を集めてきた。

上谷山は登山口の針川に至る車道にゲートが設置されて登りにくくなったが、トレイル整備によ

って、その西にある針川下谷源頭のフナ原生林で覆われた下谷山に登りやすくなった。上谷山東側の三國岳・左千方へ奥川並から登ることができるようになったのも朗報だ。

これらに限らず、高島では三國岳・百里ヶ岳・駒ヶ岳・武奈ヶ嶽・大谷山・三國山・乗鞍岳。余呉では行市山・河内山・音波山など、残雪の名山が自白押しであり、さらにその周辺では三十三間山・野坂岳・岩籠山・大黒山・妙理山・安蔵山、そして横山岳などもある。

残雪の山とはいえ雪山にはちがいがなく、冬山装備で臨むのは当然として、トレイスの少ないこれらの山ではツボ足やアイゼンでは雪を踏み抜くことが多く、ワカンやスノーシューが欠かせない。

山スキーの人も見かけるが、1000m未満の樹林の山では滑走を楽しめる箇所はそう多くはない。特にスノーシューに慣れていると、適度な滑りで軽快に進むことができ、時間短縮によって行動範囲が大幅に広がることから特におすすめだ。

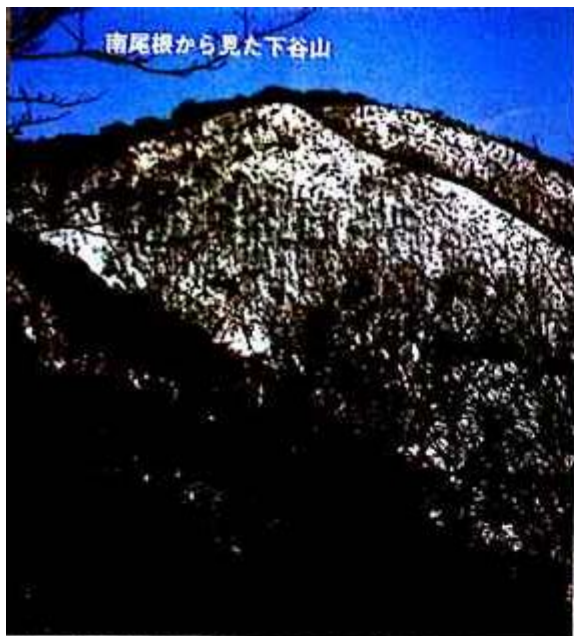
トレイルは地元によって維持管理され、トレイルマップを発行するなど状況をよく把握している。ので、事前に問い合わせるといい。

高島では観光協会内のトレイル運営協議会、余呉ではウッディバル余呉内のトレイルクラブとなる。スノーシューのレンタルもあり、独自にツアーもしている利用価値は高い。

● 高島トレイル運営協議会

☎ 0740 (22) 6111

● ウッディバル余呉 ☎ 0749 (86) 4145



残雪の下谷山



下谷山頂直前のブナ原生林



3月17日(木)・18日(金)例会 コースガイド

ブナ原生林の下谷山を歩く。残雪の山歩きと、麗の山野草の花々が楽しめる。「ウツティバル余呉」に泊まり、早朝出発で余裕をもって南尾根へ抜きたいと考えている。

県境にそびえるこの山は深い雪に覆われたままで、冬山と思つて登る必要がある。雪は随分と締まってきて、スノーシューを使えばそんなに難しくはない。ブナ林の尾根は幅広く、テープも雪で見つけにくく読図力が要求される。足並みが揃い、早朝出発すれば、これまたブナ林が美しい南尾根を進み、大音波から半明にくだるルートが楽しめる。

ベルクスキー場入口から巡視路の尾根を登る。最後の鉄塔を過ぎると深いブナ林へ入る。広い尾根を忠実にたどれば、ブナ巨樹の立つ音波山山頂。山頂からは下谷山に続く茫洋とした分水嶺尾根、これからくだる長大な南尾根が望め、南にそびえる横山岳・妙理山・大黒山もすばらしい。

下谷山へはゆるやかに起伏して延々と続くブナ林の尾根をたどる。福井側が開ける場所まで来るとしばらくで、余呉側に並走する尾根が現れる。このあたりの地形は複雑で、二重山稜を渡る分水嶺を忠実に進み南側のコルへ出て、ここから東に尾根伝いに進む。一帯のブナは太く原生林の佇まいで、抜け出た最高点が下谷山である。独標971からは南側の展望が開け、木に登ると東に堂々たる上谷山、北には白山が雄大な姿を見せる。

コルに戻り、登り返すと南尾根へ出る。ここから分水嶺同様に広いブナ尾根を進む。ピーク873を過ぎると尾根は狭まり、三角点のある大音波、やがて急斜面となり、最後の200mはスノーシューを外して慎重にくだらう。

コースタイム 栃ノ木峠から登り約4時間、下り約3時間
問い合わせ 余呉トレイルクラブ（ウツティバル余呉内）

☎0749(86)4145

陽春の山
(3・4月)

山行計画

3月	曜	地域	グレード	行き先	定員	係	備考	ページ	シラ
1	火								
2	水								
3	木								
4	金								
5	土	紀北	★★	熊野古道・海南駅～紀伊宮原駅		狩野		6	
		西濃	★★	養老山	10	山田		6	
		大和	★	竜王山		村田		6	
6	日	鈴鹿	★★★★★	清水ノ頭～雨乞岳		岩野	マイカー	6	
7	月								
8	火								
9	水	京都東山	★	鏡山～大文字山		仲谷		6	
10	木								
11	金								
12	土								
13	日	飯高	★★	細野山	25	西上	貸切バス	7	
14	月								
15	火								
16	水								
17	木	湖北	★★★★	椿坂峠～河内山・音波山～下谷山 (→18日)	25	橋上	送迎バス	7	
18	金								
19	土	紀北	★★	熊野古道・紀伊宮原駅～湯浅駅		狩野		7	
		鈴鹿	★★	高畑山～満干山	6	中	マイカー可	7	
20	日	大和	★★★★	矢田丘陵縦走		村田		8	
		鈴鹿	★★★★★	御池岳・奥の平		岩野	マイカー	8	
21	月	室生	★★	布生山～小太郎岩	25	西上	貸切バス	8	
22	火								
23	水								
24	木	大峰	★★★★	打野山	25	西上	貸切バス	8	
25	金								
26	土	紀北	★★	熊野古道・湯浅駅～紀伊内原駅		狩野		9	
		鈴鹿	★	松尾寺山		高島	マイカー可	9	
27	日	京都北山	★★	石仏峠～池ノ尾峠～フキ谷峠～ ハロ一峠	40	村田	貸切バス	9	
28	月								
29	火	京都北山	★★★★	雲心寺西平尾根～首無地蔵	35	仲谷		9	
30	水								
31	木	大峰	★★★★	ホウソ砂	25	西上	貸切バス	10	
4月	曜	地域	グレード	行き先	定員	係	備考	ページ	シラ
1	金								
2	土	紀北	★★	熊野古道・紀伊内原駅～西御坊駅		狩野		10	
		湖北	★★	虎御前山～小谷山城址		村田		10	
		東濃	★★★★★	三界山～奥三界岳	10	山田		10	
3	日	鈴鹿	★★★★★	雲仙山西南尾根		岩野	マイカー	10	
4	月								
5	火								
6	水	湖東	★	希望が丘文化公園・南校		金谷		11	
7	木								
8	金								
9	土	湖北	★★	柳ヶ湖山～橋井嶺		高島	マイカー可	11	
10	日	京都北山	★★	深見峠～ホサヒ山	40	村田	貸切バス	11	
		紀州	★★	高甲良山	25	西上	貸切バス	11	
11	月								
12	火								
13	水	湖南	★	立木山～袴腰山		仲谷		12	
14	木	台高	★★★★	野江股の頭	25	西上	貸切バス	12	
15	金								
16	土	北勢	★★	多摩山	6	中	マイカー可	12	
		鳥取	★★★★	東仙	18	古賀	貸切バス	12	
17	日	鈴鹿	★★★★★	ペンケイ～御所平		岩野	マイカー	13	
18	月								
19	火								
20	水	鈴鹿	★★	御池岳	40	村田	貸切バス	13	
21	木	台高	★★★★	大瀬谷の頭	25	西上	貸切バス	13	
22	金								
23	土	朽木	★★	水坂峠～横谷峠	25	狩野	貸切バス	13	
		美濃	★★	片知山～龍ヶ岳・高嶺山(→24日)	25	村田	貸切バス	14	
24	日								
25	月	鈴鹿	★★	藤内小屋～国見岳	22	寺井	貸切バス	14	
26	火	六甲	★★★★	滝ヶ山～樺葉茶屋		仲谷		14	
27	水								
28	木								
29	金	湖北	★★★	金真岳～白鳥岳	40	村田	貸切バス	14	
		飯高	★★	高鉢山～高岩	25	西上	貸切バス	14	
30	土	湖西	★★	箱館山～酒波寺	25	狩野	貸切バス	15	
5/3	火	台高	★★★★	明神平周辺の山々(→5日まで)		村田	マイカー可	15	
5/7	土	四国	★★★★	雲草山(→8日)	15	古賀		15	
6/25	土	海外中国	★★	長白山5日間(→29日)		高島		15	

- 残雪のある山は滑り止めを持参ください。豪雪地はスノーシュー・ワカンが必携となります。
- 申し込みは必ずチェックし、重複しないようご注意ください。
- キャンセルする場合は、必ず申込先に連絡してください。各リーダーへの山行メンバーは直前(3日前)に届けています。
- 定員制での申込人数の確認など、下記のホームページで検索することができます。

山行例会 参加要領

● 山行計画には、**会員外可**と特記してある場合は**会員外の方**(会員の家族は除く)は参加できません。一人ずつ(夫婦は連名可)往復ハガキで記入例によって必ず山行日の7日前までに到着するように、申込み先を確認のうえ申し込んでください。電話・FAX・メールでの申し込みはお断りします。

● 「実費費用」のほかに、本部の「山行運営費」として4000円を集合時にお支払いください。申し込み後、参加できなくなった場合はすぐ申し込み先に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛入りはお断りします。

● なお、例会参加者全員に傷害保険が掛けられています。出発点呼の際、係に保険料日額50円と救済対策費日額50円合計1000円(夜行日曜りの場合は2日になり2000円)を支出していただきます。

傷害保険特約内容は次の通りです。(損害保険ジャパンと契約)

・ 死亡・後遺障害保険	金額	1000万円
・ 入院保険金	日額	5000円
・ 通院保険金	日額	3000円

● 保険の対象は集合から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出てください。この保険に該当しないものは次の通りです。①ピッケル・6本爪以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④宿泊場所での事故 ⑤病死の場合(詳細は本部まで)

(記入例)
(往復ハガキを使用)

例会申込み書

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所〒

氏名

会員番号

血液型

電話・FAX 番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄には、ご自分の住所・氏名に「様」を必ず記入しておいてください。

山行計画の実施と申し込みについて

① 山行例会は、前もって保険を掛け、登山届けを提出しますので、必ず実施日の7日前までに、申し込んでください。参加人数によっては事前にバス・タクシーをチャーターする必要があります。また、山ではいかなる事態が発生するかもしれません。緊急時の連絡先、および血液型・生年月日など必ずご記入ください。

② 詳細の山行案内は、実施日の10日前頃に返信します。直前にならないと参加人数がはっきりせず、交通機関への手配等、費用もはっきりしないからです。また、早くから返信すると、コース状況等、何か変更になった場合に再連絡するのは大変です。早くから申し込みました方はそれまでお待ちください。

③ 定員制の計画は先着順に受け付けます。すでに定員に達し、キャンセル待ちの場合はその旨をすぐに返信します。お断りが無い場合は、定員枠に入っているものと判断ください。

④ 山行のグレードは、目安として次の5ランクに決めています。

(★) 初心者でも安全に歩ける(初級)コース(3〜4時間コース)

(★★) 日頃山歩きしておられる方なら誰でも歩ける(一般)コース。あまり危険のない山(5時間コース)

(★★★) かなり経験を要するコース。危険な所はないが、距離がやや長い(中級)コース(6〜7時間コース)

(★★★★) 距離は中級向きだが、危険な所があり、きつい登高・急坂が長く続く(やや健脚)コース(6〜7時間コース)

(★★★★★) 距離が長く、つらい急な登高、危険な岩場、谷の渡渉、やぶ漕ぎの連続など、ハードな(健脚)コース(7時間以上)

⑤ 雨天中止・決行の判断は、前夜(17時発表)に当地の気象情報を確認し、返信案内の判断基準の降水確率を見て各自で判断ください(係から連絡はしません)。降雨山行が嫌な方は、雨天決行・小雨決行の計画には申し込みませんようにお願いします。

北紀
海南駅から紀伊宮原駅

熊野古道ウォーク紀伊路② 週末ハイク123

★★

3月5日(出) 雨天中止

● JR 海南駅 9時40分

行程 海南駅—蔵戸王子—藤白神社—有馬皇子墓

—筆捨松—塔下王子—橋本王子—所坂王子

—一垂王子—拝ノ峠—蕪坂塔下王子—爪書

地蔵—山口王子—紀伊宮原駅(17時)

費用 交通費各自(青春18きっぷ利用可)

地図 2万5千Ⅱ海南・湯浅

係 ● 狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ 藤白坂・拝ノ峠を越え、有田市宮原へ。

濃 残雪を歩く
西 養老山
 展望の山78
 ★★
 10名

3月5日(出) 雨天中止

● JR 関ヶ原駅 8時30分

行程 関ヶ原駅(車)養老公園・養老の滝—三方

山—小倉山—養老山—古道コース—養老公

園

費用 約5000円(車代)

地図 2万5千Ⅱ養老

係 ● 山田明男

申込 〒5003-0535 海津市南濃町松山624の19 山田明男まで

◆ 岐阜百山で一等三角点の山。尾根の三角点が見つかるか? 帰りは古道経由でくだる。



大和
大和平野を一望する山 竜王山

大和平野を一望する山 金福里山ハイク37

★

3月5日(出) 雨天中止

● JR 柳本駅 10時20分

行程 柳本駅—天理トレイルセンター—長岳寺—

不動明王石像—由竜王神社—竜王山—竜王

ノ滝—崇神天皇陵—柳本駅(15時)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ初瀬・桜井

係 ● 村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆ 大和三山、生駒山脈、二上山、金剛山を展望。

鹿 残雪を歩く
鈴 清水ノ頭から雨乞岳

鈴鹿を歩く351

★★★★★

3月6日(日) 小雨(雪) 決行

● 大河原「かもしか荘」広場 8時30分

行程 かもしか荘(車)清水平林道広場—P83

5—清水ノ頭—雨乞岳—シャクナゲ尾根—

清水平林道広場

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・靈仙・伊吹」

係 ● 岩野 明 ○ 後藤康幸 ○ 一之義雄

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ 恒例、残雪の雨乞岳。シャクナゲ尾根をくだる。

東山 送り火の山5
京都 鏡山から大文字山
 ゆっくり歩こう17
 ★

3月9日(水) 雨天中止

● JR 山科駅 9時30分

行程 山科駅—鏡山—P298—大文字山—大文

字火床—法然院(14時30分)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ京都東北部

係 ● 仲谷礼司 ○ 沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ 送り火の山5回目。山科駅裏の尾根道から大文字山に登り、火床から送り火の山々を眺める。ゆっくりペースで歩く。

飯高
細野山
三等三角点、変化ある縦走路を歩く
★★
25名

3月13日(日) 小雨決行
貸切バス

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分
行程 橿原神宮前駅(バス)中加波登山口→細野山
(△701・3)→P778→883峰→細
野山線林道→飯高北奥線出合(バス)月出の
中央構造線(バス)橿原神宮前駅(16時30分)

費用 約3000円(バス代)
地図 2万5千Ⅱ菅野
係 ●西上利和 ○下部正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで
◆マイナーな山。帰路に月出の中央構造線を見学
する。



湖北
榎坂峠から河内山・音波山・下谷山
スノーシューで残雪を楽しむ
★★★★
25名

3月17日(木)18日(金) 1泊2日 雨天中止

●(17日) JR 余呉駅9時10分
行程 (17日) 余呉駅(バス)榎坂峠→庄野嶺越→
河内山→中河内(バス)ウツティバル余呉
(ロッジ泊)
(18日) 宿舎(バス)板ノ木峠→音波山→
下谷山→点標大音波→半明(バス)余呉駅
(17時)

費用 約10000円(送迎バス・宿泊・弁当2日分)
*スノーシューのレンタル2000円
装備 自炊用具・食料等各自(ロッジで入浴可)
地図 「余呉トレイルマップ」(2万5千図)
係 ●榎上俊雄 ○村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで
◆残雪の余呉トレイルを2日間、スノーシューで
楽しむ。フナ林をぬって歩く醍醐味は最高。
*定員内でマイカーでの参加可能(ウツティバル
余呉へ9時30分まで)。
*2日間共に昼食弁当・送迎バスは、ウツティバ
ル余呉で用意する。

紀北
紀伊宮原駅から湯浅駅
照野古道フオーク紀伊路3 週末ハイキング24
★★

3月19日(日) 雨天中止

●JR 紀伊宮原駅10時00分
行程 紀伊宮原駅→宮原の渡し場跡→得生寺→糸
我王子→糸我峠→逆川王子→万津戸峠→北
栄橋→立石の道標→湯浅駅(14時)

費用 交通費各自(青春18きっぷ利用可)
地図 2万5千Ⅱ湯浅
係 ●狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで
◆有田川を渡り糸我峠を越え、古道の宿場町湯浅
へ。解散後、醤油の街の散策や買物を楽しむ。

鈴鹿
高畑山・溝千山
展望の山
★★
6名

3月19日(日) 雨天中止
マイカー可

●JR 石山駅7時30分
行程 石山駅(車)鈴鹿トンネル西口万人講堂夜
灯→高畑山→溝千山(往路)→万人講堂
夜灯(車)石山駅

費用 交通費各自
地図 2万5千Ⅱ亀山
係 ●中 照行

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
10 新ハイキング関西まで
◆鈴鹿南部の稜線を歩く。
*マイカーは万人講堂夜灯あたりへ9時までに。

大和
東生駒駅から王子駅へ
矢田丘陵縦走

★★★

3月20日(日) 雨天中止(21日祝に順延)

●近鉄東生駒駅9時30分

行程 東生駒駅—桐峠—△2559・2—樫ノ木ト
ンネル上—六ツ辻峠分岐—矢田寺分岐—田
見岩—松尾山—白石畑—王子駅(16時)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ生駒山・信貴山

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆東生駒駅から南へ矢田丘陵を縦走する。やや口
ングコース。

鈴鹿
残雪を歩く
御池岳・奥の平

鈴鹿を歩く352

★★★★★

3月20日(日) 小雨(雪) 決行

マイカー

●御池林道小又谷分岐広場8時30分

行程 分岐広場—ノタノ坂—土倉岳—奥の平—ボ
タンブチ—南峰—T字尾根—御池林道—分
岐広場

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・靈仙・伊吹」

係 ●岩野 明 ○後藤康幸 ○一芝義雄

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆恒例、残雪の奥の平を楽しむ御池岳山行。

生
三等三角点の山
布生山から小太郎岩

★★
25名

3月21日(祝) 小雨決行

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)瓜ヶ久保—中山峠分岐
—中山峠—布生山(△727・3)—中山—
小太郎岩—瓜ヶ久保(バス)橿原神宮前駅
(17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ俱留尊山

係 ●西上和和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆山頂から小太郎岩を目指して植林と小ササの縦
走路を小さなアップダウンを繰り返しながら歩く。



布生山山頂 (西上和和)

大峰
三等三角点 谷瀬の吊橋から望む風格の山
打野山

★★★
25名

3月24日(休) 小雨決行

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)谷瀬登山口—612
峰—打野山(△1089・2)—1053峰
—作業小屋—林道終点出合(バス)橿原神
宮前駅(17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ辻堂・上垣内

係 ●西上和和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆谷瀬集落から右の尾根に取り付き、左廻りで尾
根を一周する。



打野山山頂 (西上和和)

紀北
湯浅駅から紀伊内原駅
熊野古道ワオーク紀伊路。週末ハイイク125
★★

3月26日(出) 雨天中止

● JR湯浅駅10時10分

行程 湯浅駅—久米崎王子—津兼王子—河瀬王子—東の馬留王子—大峠—小峠—金魚茶屋跡—沓掛王子—原谷—西の馬留王子—内ノ畑王子—高家王子—紀伊内原駅(17時頃)

費用 交通費各自(青春18きっぷ利用可)
 地図 2万5千||湯浅・高家
 係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ 難所の大峠を越え、日高町内原へ。石畳道あり。

鹿
近江の山
松尾寺山
マイカー可
★

3月26日(出) 雨天決行

● 醒ヶ井養鱒場10時00分(JR醒ヶ井駅からバス)

行程 養鱒場—育林展示林—坊跡—夫婦杉—第一鉄塔—坊跡—養鱒場

費用 交通費各自 *駐車代400円
 地図 2万5千||彦根東部
 係 ◎高島伸浩

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ 養鱒場の裏山松尾寺山(△503.6)を周回する。

京都北山
石仏峠・池ノ尾峠・フキ谷峠・ハロー峠
早春の峠越を伝う 京都北山歩き144
★★
 40名

3月27日(日) 雨天中止

● JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)井戸妹路谷分岐—地藏谷—石仏峠—池ノ尾峠—フキ谷峠—△732.9—ハロー峠—鶴野・黒田トンネル西口(バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)
 地図 昭文社II「京都北山」
 係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆ 芽吹き前のやぶ山を石仏峠から北のハロー峠へ。

京都北山
雲心寺西平尾根から首無地蔵
愛宕山シリーズ24 火焔ハイイク79
★★★
 35名

3月29日(火) 雨天中止

● 愛宕道バス停9時00分(京都駅7時50分発)

行程 愛宕道—愛宕参詣道—細野峠—雲心寺西平尾根—P708—P812—首無地蔵—梨の木林道—清滝バス停(16時30分頃)

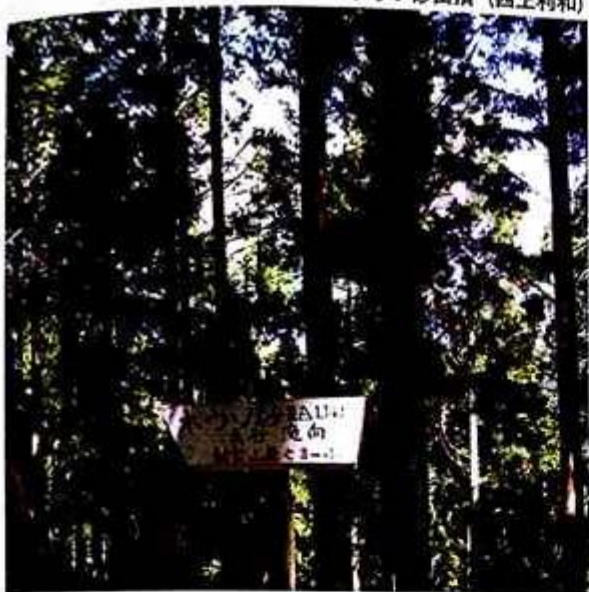
費用 交通費各自
 地図 昭文社II「京都北山」
 係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆ ウジウジ谷の西尾根であまり歩かれていない。



ホウソウ砂山頂 (西上和)



大峰
ミスナラ自然林が豊富で静かな山
ホウソウ砂

25名

3月31日(木) 小雨決行

貸切バス

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)→梅の本バス停→登山

口→94鉄塔→山又ヶ→ホウソウ砂(△)→4

3(7)→反射板(往路)→梅ノ本バス停(ハ

ス)橿原神宮前駅(17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ辻堂

係 ◎西上和 ○下郡正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆急登の尾根だが休憩をとりながらゆっくり登る。

北
熊野古道ウォーク紀伊路。週末ハイイク1260
紀伊内原駅から西御坊駅
**

4月2日(出) 雨天中止

●JR紀伊内原駅10時25分

行程 紀伊内原駅→善童子王子→愛徳山王子→道

成寺→海土王子→湯川子安神社→岩内王子

→塩屋王子→紀鉄西御坊駅(16時30分)

費用 交通費各自(青春18きっぷ利用可)

地図 2万5千Ⅱ高家・御坊

係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆道成寺に立ち寄り、日高川河口の塩屋王子へ。青春18きっぷ利用の白帰りはここまで。

北
桜と岩・城跡を訪ねる 金剛里山ハイイク38
湖北
虎御前山から小谷山城址
**

4月2日(出) 雨天中止

●JR虎姫駅9時10分

行程 虎姫駅→虎御前山→小谷山城登山口→小谷

城址→小谷山→南西尾根→小谷山城登山口

(バス)須賀谷温泉(入浴:バス)高月駅(16時)

費用 交通費各自 *入浴料1000円

地図 2万5千Ⅱ虎御前山

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆NHK大河ドラマ「江」の舞台を歩き、名湯で汗を流す。

濃
一等三角点と300名山 展望の山79
東
三界山・奥三界岳

10名

4月2日(出) 雨天中止

●JR勝川駅7時30分

行程 勝川駅(車)登山口→三界山→奥三界岳→

(往路)→登山口(車)勝川駅

費用 約2500円(車代)

地図 2万5千Ⅱ付知・三留野・奥三界岳

係 ◎山田明男

申込 〒503-0535 海津市南濃町松山624

の19 山田明男まで

◆岐阜百山で一等の三界山、雪の状態が良ければ300名山の奥三界岳まで挑戦する。前回は両方行くことができた。

鈴鹿
早春の花を訪ねて山 鈴鹿を歩く35003
霊仙山西南尾根

マイカー

4月3日(日) 雨天中止

●河内線甲頭倉入口広場8時30分

行程 入口広場(車)今畑→笹峠→西南尾根→福

寿園→霊仙山→おさる岩→汗ふき峠→今畑

費用 交通費各自

地図 昭文社「御在所・霊仙・伊吹」

係 ◎岩野 明 ○後藤康幸 ○一芝義雄

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆恒例、花の霊仙山西南尾根を楽しむ。スハマンウ・フクジュソウなどが待っている。

東
 桜満開を期待 城北山ちよつと歩き
希望が丘文化公園・南稜 ★

4月6日(休) 雨天中止

● JR野洲駅南口8時50分

行程 野洲駅(バス)花緑公園―南稜―配水池―
 天山―採石場跡―南ゲート―菅尾ヶ岳―希
 望の橋―桜の森―公園―西ゲート(バス)
 野洲駅

費用 交通費各自(バス往復650円)

地図 2万5千Ⅱ野洲

係 ◎金谷 昭 ○谷 守

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
 10 新ハイキング関西まで

◆希望が丘公園南の東西に連なる丘陵を歩く。

湖北
 余興トレイル
柳ヶ瀬山から椿井嶺 ★★
 マイカー可

4月9日(出) 雨天決行

● JR木ノ本駅8時40分

行程 木ノ本駅(車)柳ヶ瀬―柳ヶ瀬山―椿井嶺
 ―椿坂峠(車)木ノ本駅

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ中河内

係 ◎高島伸浩

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
 10 新ハイキング関西まで

◆昨年9月歩いた時、桜の季節と約束した山。ま
 た熊さんに会えるか?

*車か電車を明記ください。

京都北山
 安掛東尾根を歩く 京都北山歩き145
深見峠からホサビ山 ★★
 40名

4月10日(日) 雨天中止

● JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)深見トンネル口―深見峠―
 P73―杉谷分岐―ホサビ山―平屋富士
 ―安掛(バス)京都駅(18時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社Ⅱ「京都北山」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
 10 村田智俊まで

◆深見峠から巡視路をホサビ山、平屋富士へ。

紀州
 和歌山の岳人に人気がある
高甲良山 ★★
 25名

4月10日(日) 小雨決行

● 近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)大熊登山口―670
 峰―940峰―高甲良山―大熊登山口(バ
 ス)橿原神宮前駅(17時30分)

費用 約3500円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ護摩壇山・電神

係 ◎西上和 ○下都正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の
 10 新ハイキング関西まで

◆大熊集落の里山で山道は歩きやすい。



立木観音の山
立木山から袴腰山

ゆっくり歩き約18

★

4月13日(水) 雨天中止

●南郷バス停10時00分 (JR石山駅発9時30分頃)

行程 南郷―立木観音―立木山―袴腰山―湖南交

電所―南郷(14時40分)

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ瀬田・朝宮

係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

会員外可

◆北参道から立木観音に立ち寄り、その裏の二山に登る。ゆっくりペースで歩く。



立木山から袴腰山ルート図 5万図・国土地理院

高野江股の頭

江馬小屋谷から登る

★★★
25名

4月14日(木) 小雨決行

●近鉄榎原神宮前駅中央口8時05分

行程 榎原神宮前駅(バス)江馬小屋谷赤い橋―

ナンノ木平―尾根分岐―野江股の頭―尾根

分岐―ナンノ木平―赤い橋(バス)榎原神

宮前駅(17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ七日市・宮川貯水池

係 ◎西上和利 ○下都正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆昨年の4月と7月雨天中止した。リベンジする。



野江股の頭山頂三角点(西上和利)

北勢 跳望と森林ハイクを楽しむ
多度山

★★
6名(4)

4月16日(出) 雨天中止

●JR石山駅7時30分

行程 石山駅(車)多度大社―愛宕神社―多度山

―石津分岐―多度大社(車)石山駅

費用 交通費各自

地図 2万5千Ⅱ阿下喜・弥富

係 ◎中 照行

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆木曾三川、濃尾・伊勢平野を一望する。
*マイカーは多度大社へ9時30分までに。

鳥取 やぶ山へ登山道が開かれた
東仙

★★★
18名

4月16日(出) 雨天中止

●JR加古川駅7時40分

行程 加古川駅(バス)沖の山林道―東仙―(往路)

―沖の山林道(バス)加古川駅(18時)

費用 約5000円(加古川駅からバス代)

地図 2万5千Ⅱ岩屋堂

係 ◎古賀慶二

申込 〒675-0112 加古川市平岡町山之

上684-33 17A-403 古賀慶二まで

*3月10日まで

◆ネマガリタケに阻まれ、登山困難な山も開かれた。しかし、複雑。*定員未滿は中止

鈴鹿 展望とミツバツツジ 鈴鹿を歩く354
ベンケイ・御所平 ★★★★★

4月17日(日) 雨天中止
 マイカー

●黒滝集落河原広場 8時30分

行程 河原広場―太郎谷林道―ベンケイ―舟石―
 グミの木平―水無―御所平―ヨコネ―割谷
 ―田村谷林道―黒滝

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「御在所・靈仙・伊吹」

係 ●岩野 明 ○後藤康幸 ○一芝義雄

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆展望を楽しみながら、新緑のアセビとミツバツツジの咲き乱れる稜線をのんびり歩く。

鈴鹿 春の花を求めて
御池岳 ★★ 40名

4月20日(水) 雨天中止
 貸切バス

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)鞍掛トンネル西口―鞍掛峠―
 鈴北岳―丸山―ボタンブチ―奥の平―真
 ノ谷―池ノ平―鈴北岳―御池谷―鞍掛橋
 (バス)京都駅(18時)

費用 約3000円(バス代)

地図 昭文社Ⅱ「御在所・靈仙・伊吹」

係 ●村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆御池岳の雪が消え、花が咲きそろった。

高台 江馬小屋谷を遡り登山口へ
大熊谷の頭 ★★★★★ 25名

4月21日(木) 小雨決行
 貸切バス

●近鉄榎原神宮前駅中央口8時05分

行程 榎原神宮前駅(バス)江馬小屋谷出合―尾
 根取付―庵の谷林道終点―庵ノ谷高―大熊
 谷ノ頭―庵ノ谷高―庵の谷林道終点―庵の
 谷林道入口(バス)榎原神宮前駅(17時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千11七日市

係 ●西上利和 ○下都正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆水量が多い時は庵の谷林道入口から往復する。



大熊谷の頭山頂(西上利和)

朽木 高島トレイル⑥コース 週末ハイキング27
水坂峠から横谷峠 ★★ 25名

4月23日(土) 雨天中止
 貸切バス

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)水坂峠―二の谷山―桜峠―
 椋川―行者山登山口―行者山―横谷峠(八
 乙)京都駅(18時頃)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千11巽庭野

係 ●狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆昨年10月雨天中止の再山行。



行者山山頂(西村文明)

濃 バンガロー泊を楽しむ
美 片知山・瓢ヶ岳と高賀山
 片知山(ひくく) 瓢ヶ岳(ひょうが) 高賀山(たかが) ★★ 25名

4月23日(出)24日(回) 1泊2日 雨天決行

貸切バス

●(23日) J R京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 (23日) 京都駅(バス)ふくべの森公園―片

知山―骨ヶ平―瓢ヶ岳―骨ヶ平―ふくべの

森公園(バス)ロッジ板取(自炊泊)

(24日) ロッジ(バス)高賀神社―御坂峠―

高賀山―本宮神社(バス)高畑温泉(入浴・

バス)京都駅(19時)

費用 約9000円(バス・宿泊・入浴代等)

装備 バンガロー泊の自炊用具・食料各自

地図 2万5千Ⅱ刈安・上ヶ瀬・下洞戸

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆1日目は片知溪谷から片知山・瓢ヶ岳に登り、2日目に高賀山へ。板取川溪谷のキャンプ場でバンガロー泊。下山後、高畑温泉で汗を流す。

鹿 奇岩の大展望台 平日ふれあいハイック77
鈴 藤内小屋から国見岳 ★★ 22名

4月25日(月) 雨天中止

貸切バス

●J R京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)蒼滝橋―藤内小屋―国見尾

根―国見岳―根の平峠―朝明駐車場(バス)

京都駅(18時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ御在所山

係 ◎寺井恒夫

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆国見尾根の展望台から奇岩の多い国見岳へ。

甲 エイサンスミレを期待 火曜ハイック80
六 逢ヶ山から極楽茶屋 ★★★

4月26日(火) 雨天中止

●神鉄有馬口駅9時10分

行程 有馬口駅―東山橋―逢ヶ山―仏谷峠―高尾

山―番匠屋畑尾根―極楽茶屋―六甲山上駅

(ケーブル)下駅(16時30分頃)

費用 交通費各自

地図 昭文社Ⅱ「六甲・摩耶・有馬」

係 ◎仲谷礼司 ○沖 伸

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆少しロングになるので帰路はケーブルを利用。

湖北 残雪の花房尾根をくだる
金 糞岳から白倉岳 ★★★ 40名

4月29日(祝) 雨天中止

貸切バス

●J R京都駅八条口団体バスのりば7時40分

行程 京都駅(バス)金糞岳登山口―金糞岳―白

倉岳―花房尾根―奥山―高山キャンプ場

(バス)京都駅(18時30分)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ近江川合

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 村田智俊まで

◆今回は全ルートを花を見ながら歩く。

高 展望抜群で川俣富士と呼ばれる
飯 高鉢山から高岩 ★★ 25名

4月29日(祝) 小雨決行

●近鉄橿原神宮前駅中央口8時05分

行程 橿原神宮前駅(バス)林道乙栗子線終点登

山口―高鉢山南峰―高鉢山―屏風岩―高鉢

山西峰―高岩―林道岩谷線(バス)温泉「た

かすみ」(バス)橿原神宮前駅(17時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ菅野

係 ◎西上利和 ○下都正年

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

◆高岩への縦走路は高低差が少なく快適に歩ける。

西 近江坂
箱館山から酒波寺

週末ハイイク128

★★
25名

4月30日(土) 雨天中止

貸切バス

●JR京都駅八条口団体バスのりば7時40分
行程 京都駅(バス)箱館山ゴンドラ駐車場―ス
キー場―処女湖―平地―ヒラテスト今津―

赤坂山―酒波寺(バス)京都駅(16時)

費用 約3000円(バス代)

地図 2万5千Ⅱ熊川・梅津

係 ◎狩野東彦

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

◆箱館山コースから平地へたどり、近江坂導入部を酒波寺へくだる。

高 テント山行
明神平周辺の山々を歩く

★★★

5月3日(火)～5日(木) 2泊3日 雨天中止

●(3日) 近鉄大和上市駅10時00分 マイカー可

行程 (3日) 大和上市駅(タクシー)大又林道終

点―明神平(テント泊)

(4日) 明神平―園見山―伊勢辻山―木樫

山―明神平(テント泊)

(5日) 明神平―明神岳―檜塚―明神平―

大又林道(タクシー)大和上市駅(16時)

費用 約6000円(タクシー代)

装備 テント・自炊用具・食料等各自

地図 昭文社Ⅱ「大台ヶ原」

係 ◎村田智俊

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 村田智俊まで

◆芽吹きの台高の山々をのんびり歩く。

*マイカーは大又林道終点広場へ11時までに。

四国 自然林が美しい、3600度展望の山
雲草山

★★★
15名

5月7日(土)～8日(日) 1泊2日 雨天決行

●JR三ノ宮駅7時30分

行程 (7日) 三ノ宮駅(バス)岳人の森―砥石権

現―岳人の森(泊)

(8日) 岳人の森―雲草山―高丸山登山口

(バス)三ノ宮駅(20時頃)

費用 約20000円(バス・宿泊代等)

地図 2万5千Ⅱ雲草山

係 ◎古賀慶二

申込 〒675-0112 加古川市平岡町山之

上684-33 17A-403 古賀慶二まで

*3月30日まで

◆風薫る四国の山々。バスは公共機関を利用予定。申し込み状況によっては、貸切バスを検討。

中国 フラワーハイキング
長白山 5日間

★★

6月25日(土)～29日(水) 雨天決行

●(25日) 関西空港12時00分

行程 (25日) 関西空港(飛行機)仁川空港(ホテ

ル泊)

(26日) 仁川(飛行機)延吉(バス)西坡山門

周辺(ホテル泊)

(27日) 西坡から天池(長白山が囲むカルデ

ラ湖)の稜線を靑石峰までフラワーハイキ

ング。午後長白山大峽谷、小天池、長白山

瀑布見物(長白山温泉ホテル泊)

(28日) 地下森林見学(バス)北坡(天文峰

ハイキング・バス)図們観光(バス)延吉(ホ

テル泊)

(29日) 市場見学後、延吉(飛行機)仁川(飛

行機)関西空港(20時55分)

費用 約20万円

地図 参加者に配布

係 ◎高島伸浩

申込 〒610-0121 城陽市寺田大群10の

10 新ハイキング関西まで

*5月30日まで

手配 アルバインツアースービス(株)大阪支社

◆北朝鮮では白頭山と呼び、天池の真ん中が中国との国境。中国から北朝鮮の山が目の前。この時期、足の踏み場もないほどのお花畑となる。

●カタクリの花園を抱く

はとぶきやま

鳩吹山

藪木 伸人

私が初めて自生のカタクリを見たのは、局ヶ岳であった。それ以降、藤原岳や鞍掛峠の周辺、伊吹北尾根などで花を見てきたが、今回、大群落があると聞いて鳩吹山北麓を訪ね、紫雲たなびくように林床を埋め尽くす花々とお会いすることができた。



林床を埋め尽くすカタクリの花

犬山駅から10分程、のどかな電車に乗り、私達が登山の起点とした名鉄広見線可児川駅に着いたのは10時過ぎだった。駅前を西に向かうと、すぐに目指す鳩吹山がわかった。駅から15分で可児川に架かる橋を渡る。流れはすいぶんと下にある。

橋の先で道が左右に分かれる。カタクリ自生地へは右だが、妻が「花を見に行けば私は動かなくなるだろう」と言う。確かにそうだ。それに、日が高くなってからのほうが、花が開いているかもしれない。花は後の楽しみにとって、左へ進んだ。

可児市観光協会のホームページを参照すると、鳩吹山への登山口は、西から石原口、西山口、真禪寺口、大脇口の四ヶ所がある。私達が向かった大脇口は標高66計と、中で

は最も低い。山頂までの道のりは真禪寺口に次いで短く、「登り45分」となっていた。

10時20分、左に土田城址への道を見送り、国道下をくぐる所が大脇口登山口だった。駐車場でいっばいだ。小橋を渡って山に取り付く。整備された道である。25分登った所に「山頂へ20分・450m、大脇口へ20分・600m」の道標があった。少し先で稜線に出ると、右は小天神展望台へ向かう道である。

左へ登って行くと、チャートの層状露頭が出てくる。振り返れば、蛇行する木曾川の向こうに冠雪の峰が見える。御嶽山だ。道を外れうきうきと岩の上を登るが、歩きづらいでやっばり道に戻る。

東屋のある休憩展望所では大勢が憩っていた。11時4分、道標に「小天神15分・0・3km、大脇登山口35分・1・1km、真禪寺登山口35分・0・8km、西山登山口45分・1・7km」とあった。ここから1分とかからず山頂に着いた。三等三角点名は「天神山」。点の記によれば、所有は可児市土田の白鬚神社で、三角点の北東7・4計にある西山大天神社が点名の由来だろう。真禪寺口から「約30分(800m)」と記されている。

鳩吹山のカタクリの自生地



北側の展望がすばらしく、山名盤を見ながら、能郷白山、平家岳、白山、檜ヶ岳、穂高連峰、御嶽山、笠置山、恵那山、茶臼山が確認できた。この山名盤には他に、別山、乗鞍岳、高賀山、瓢ヶ岳、納古山、浅間山の名も刻まれている。妻が、犬山城は見えないのかと訊くので、ここからは無理だと応えたが、名駅のビル群は見えていた。

11時23分、山頂を後にして展望所へ戻り、11時40分、小天神展望台に到着。そこから北への道を下ると傾斜はあるものの、思っていたよりもしっかりした道でロープまで張ら



れている。道が付けれられていなければ木曾川まで転げ落ちていきそうな急斜面がある。下りきる手前に、樹が小さいわりには多くの花を咲かせているヒカゲツツジがあった。

静原の山辺の森の下かげに
ほのほの咲ける片栗の花

(新村出)

鳩吹山のカタクリは、どんな姿で私達を迎えてくれるのだろうか。

小天神から25分くらい、いよいよカタクリ群生地を見学する。なだかな斜面を覆う大群落は満開に近く、夢中で写真を撮った。遊歩道しか散策することはできないが、樹林が

だ葉を出していないので遠くまで視界が開ける。その数十万株といわれるカタクリが山裾を埋め尽くすさまは見事というほかない。見飽きることなく半時間ほど留まっていた。

それにしても、このような大群落がかたくりのように形成されていくのだろうか。

まず、カタクリの花には、受粉を確実にするための構造的な特徴があるという。花被片が後ろに大きく反り返るため、吸蜜に訪れた虫は花被片につかまる体勢がとれず、突き出した蕊の束に止まる。その結果、虫の体を介しての受粉が行われやすくなるのだ。花が傾籠の形で咲くのは、こんな理由があったのである。

もののふの八少女が汲みまがふ 寺井の上の堅香子の花

(大伴家持)

群生して咲き、大量の蜜源植物となるカタクリは、早春の低温下で活動するハチたちにとって貴重な存在である。花から花へと次々に飛び交うハチの活動は、確実な受粉を保證する。カタクリが群生することは、カタクリとハチの両者にとって都合のよいことなのだ。

かたくりは青き実となる恋ごころ

風にかかる、五月の袂に

(宮澤賢治)

次に、結実後、カタクリの播種に貢献しているのは、アリらしい。温帯林の林床に生育するユリ科・スミレ科・ケシ科などの種子には、アリの好きな物質を多量に含んだ「エライオソーム」という付属体を備えているものが多い。アリが巣に運んだ種子からエライオソームだけを切り取った後、巢外に捨てられた種子本体の何割かが発芽する。ただし、春先に見られる実生のカタクリは、前年につくられた種子数の一割に満たないという。

発芽後のカタクリは、葉が一枚の無性段階を何年も経てゆく。花を付ける有性段階にまで生長するには、平均八年もの年月が必要だそう。鳩吹山に見られる大群落も、数多くのハチやアリたちの何世代にもわたる営みのおかげで形成されたのだろう。ちなみに、数百万分の一の確率で純白のカタクリの花が現れるらしいが、まだお目にかかったことはない。

12時25分、下山し

木曾川の蛇行と源流の山、御嶽



た場所を過ぎ、駐車場に入り切らない車列を横目に可児川駅を目指す。駐車場の誘導係員が、ドライバリーに「花、温泉、帰る？」と尋ねている。「花」はカタクリ、「温泉」は「湯の華アイランド」という施設のことらしい。そして「帰る？」は、駐車待ちをあきらめて帰るか、と訊いていたのだ。電車で来てよかった。

20分で駅前に戻り、そば屋で昼食をとってから帰路についた。

(平成22年3月22日歩く)

コースタイム

名鉄可児川駅(20分)大脇口(45分)鳩吹山三角点(15分)小天神(25分)カタクリ自生地(20分)可児川駅

地形図

2万5千1美濃加茂

参考文献

教育社「植物の世界 第1号」(88年刊)

●福寿草と頭陀の洞窟探し

静寂の藤原岳

ふじわらだけ

海老原 陸治



鉄の平と御池岳

早朝から山に入ろうとすると、山はよそ者を見るように私を迎える。初めてのコースならなおさらだ。私は、何やら恐れにも似た違和感を持ちつつ登っていく。山を歩くうちに、山に体がなじんでいく。山から下り

るころには、この違和感はすっかり消え失せている。私は、この感覚が忘れられずに山に登っていると書いてもいいくらいだ。どういうわけか、人が多く行き来する登山道を歩いている時は、この感覚が鈍くなる。久々の山行なので、この感覚を楽しめたいなと思ひ、ルートを選んだ。

藤原岳。この時期、福寿草ツアーが大挙して押し寄せる鈴鹿の観光スポットだ。多くの登山者は大貝戸道と聖宝寺道に集中しており、広いテールランドをもつ藤原岳だけに何かかなるだろうと考え、ルートを選んだ。

取付点は、坂本谷出合の祠。坂本谷は昔から袖道として使われてきたルートだが、土石流により入山禁止

となり、現在は大堰堤の工事が進んでいる。ここには、秋葉神社と支那加茂神社という二つの祠が祀られている。秋葉神社は、火伏せの神で炭焼きの拠点として栄えた坂本らしい祠だ。支那加茂神社は、戦後中国からの引揚者が祀ったものようだ。祠の裏山をしばらく登って行くと林道整備の青の荷造りテープが見えてくる。青テープを過ぎたあたりからきれいに手入れされた植林に入っていく。手前まで林道が来ているので、林業関係者はこれを使っているようだ。

植林を抜け、聖宝寺左岸尾根に出る。この尾根は自然林の尾根でいつ来ても気持ちがいい、正面には坂本谷の対岸にある子向井山が見える。尾根筋には古い白石工業の杭と新しいアサノセメントの杭が目立つ。鉾掘権を示すものだろうか。猟師の黄色テープも付けられている。このテープは林道への下り口を示すようだ。陽光に照らされて気持ちよく歩いていくと、聖宝寺道との合流点が見えてきた。

聖宝寺道には合流せず、右に見える小谷を越えてテールランドにつながる「お藤の鼻筋」といわれるカレンフェルトの岩尾根までトラバ

スしていく。カレンフェルトは、石灰岩台地の表面に岩柱が並んでいるように見える地形のこと

お藤の鼻筋の福寿草



だ。きのうの雪と先週末の雨のおかげでよく滑る。鹿の蹄跡を使おうとするが、これもグチャグチャでだめだ。岩尾根に取り付いてからはカレンフェルトをたよりに登っていった。岩尾根下部の福寿草は、何度も花を開いたり閉じたりしたようであまり美しくない。高度を上げるにしたがつて咲き始めの福寿草が美しい。八合目あたりの日当たりのよい場所では群落も見られる。八合目以降は、雪の中からのぞく福寿草が見られ、福寿草の様々な姿が楽しめた。

テールランドに着くと何組ものグループが登山道を歩いている。ここまで人に会わなかっただけに、予想していたとはいえず驚く。足早に天狗岩に向かうがこも人が多いため天狗岩をパスし、白船峠への分岐を



頭陀の洞窟

2.5の洞窟があった。洞窟というより、人がひとり入れる岩屋といった感じだ。御池岳を正面にすえてツララの垂れ下がった岩屋が修行窟の雰囲気を感じている。

コースタイム
 藤原簡易駐車場(4時間30分)→テープランド(40分)→流レ洞源頭(30分)→鉄の平(50分)→頭陀の洞窟(1時間)→頭陀平(1時間)→藤原簡易駐車場

地形図
 2万5千〃篠立・竜ヶ岳

曲がる。分岐を曲がってしまえば登山道とはいえども、人はいなかった。途中から登山道を離れ、流レ洞の源頭に向かう。流レ洞は、天狗岩と頭陀平の間を真ノ谷から突き上げている谷になる。1月にスノーシューハイイクで来た時に気になっていた場所だ。

源頭は人の気配すらない木立に囲まれた静かな場所だ。鹿が「キーン」と鳴いて逃げていった。風も無くゆつくりできそうなので、ここで昼食にする。焼き鳥入りカレーうどんを食べる。ガスコンロの火が弱く、熱々とはいかないが、とにかくかきこむ。鉄の平は、989メートルあたりの鉄塔の立っている平坦地のことだ。そこに向けてトラバースしていく。ここ

もグチグチグチで滑りやすい。カレンフェルトをたよりに歩いていく。この福寿草は、三重県側より小粒で咲くのも遅いようだ。頭陀平からの尾根を越えると鉄塔が見えてきた。鉄塔に近づくと、その先の鉄塔の下に広がる鉄の平が見えてきた。鉄の平は、思ったよりも広く自然林が豊かで落ち着ける場所だ。頭陀の洞窟探しが残っているので、先を急ぐ。

頭陀の洞窟は頭陀平の下部にあることからその名がついたようだ。頭陀というのは仏教用語で「衣食住に対する食欲を払いのけるための修行」のことで、修験道とのかかわりを感じさせる。

のかと考えた。鉄の平から南西にのびる山葵洞出合にのびる尾根が使えそうなので、下りてみることにした。鉄の平からこの尾根に向かうと、すりきれた青いテープが二本つづられている。尾根を少しくだると大岩があったので探るが違う。次に大岩がたくさん連なる場所に着く。ここの大岩をくまなく探してみるが洞窟は見えない。大岩を探るうちに南方向に進み過ぎ、御池岳の東のボタンブチが見えなくなった。「東のボタンブチから見える」位置にあるようなので、方向を修正してもう少しくだると、穴ノ谷側に大岩が見える。あるレポートに、穴ノ谷からトラバースしたときに「一つ目の大岩ではなく、遠いほうの二つ目の大岩だった」と書いてあったと気づき、尾根筋を見ると「ありました大岩が」。

廻り込むと頭陀の洞窟だ。両側の岩にはさまれた回廊の奥に高さ1.5の洞窟があった。洞窟というより、人がひとり入れる岩屋といった感じだ。御池岳を正面にすえてツララの垂れ下がった岩屋が修行窟の雰囲気を感じている。

霊仙山を正面に望む伊吹山の平等岩と同じ空気を感じた。

頭陀の洞窟の場所は、鉄の平から山葵洞出合に向かつて下りる尾根上にあつた。鉄の平からすりきれた青テープの尾根をくだり、地図上の崖マークに当たる大岩の連なる場所まで下りる。ここから尾根は三つに分かれる。いちばん下流側の尾根が本尾根で山葵洞出合に向かい、いちばん上流側の支尾根上のクラに頭陀の洞窟がある。真ノ谷から登るより、鉄の平からくだるほうが探しやすいだろう。

時計を見ると14時20分、そろそろ帰らねば。時間も無いので鉄の平に戻り、そこから頭陀平を越えて木和田尾根を下りることにした。さすがにこの時間帯に木和田尾根をくだる人はおらず、最後まで静かな山行を楽しむことができた。

(2010年3月27日歩く)

●万葉集の歌枕を訪ねて

おかざき さと
 岡崎の里から
 だいもんじやま
 大文字山

木村 太郎

岡崎公園に入る。谷崎潤一郎が「細雪」で「京洛の春を代表する」と称えた平安神宮のしだれ桜が神苑の塀越しに垣間見えている。

平安神宮の森と別れて、丸太町通りを東へ向かう。このあたりは東山第十三峰「紫雲山」の金戒光明寺という、法然ゆかりの黒谷の門前村として栄えた昔の岡崎の里である。

歌人の与謝野寛（鉄幹）が生まれた所で、寛が幼年時代を過ごしている。

母にそひてはじめて童わが摘みし
 築土ふりたり岡崎の里

（歌集「紫」より）

寛は、大文字山が見える岡崎神社に近い願成寺（今はない）で住職をしていた父と生活していたという。「余の郷里は京都の岡崎の里で東山に近い。風景の佳いことは青緑の山水の画屏風の中にある様な所」（新派和歌講義）と、鉄幹は郷里を自賛している。

大文字山を見ながら天王町の白川通りを渡り、関雪桜が咲き誇る「哲学の道」へ進む。同志社創立の新島襄が眠る東山第十六峰「若王子山」の登り口、熊野若王子神社の前に架

「明星」歌人の与謝野晶子の歌に、京都の春は東山からおとずれるというものがある。

春の夜は東山からくると云ふ
 寺寺籠し月のほるとき

（歌集「常夏」より）

おとずれた京の春、花が美しい京の春。能舞台「熊野」で飾られる清水寺の桜、春宵千金に円山を彩る祇園の夜桜など、東山の桜名所を数え上げれば切りがない。東山三十六峰が眠りを覚まして春風が吹く頃、桜見物かねて大文字山を訪ねた。

登山愛好者だけではなく、巷間で東山三十六峰という文言はよく使われている。しかし平安朝からの歴史をもつ京都東山の山々の中で、由緒ある社寺の背景ともなっているどの

山が、三十六峰の中に入るかについては、長い間にわたって定説がなかった。

比叡山から稲荷山までの東山連峰の中から選んで、京都新聞が夕刊紙上で「東山三十六峰」を載せたのは、昭和31年春から後である。その時の連載を母体に、京都新聞社が昭和53年に「史跡探訪東山三十六峰」を新たに編纂し出版、それが一般的に現在通用している東山三十六峰のようである。

地下鉄東山駅から地上へ上がり、三条通りの白川橋より白川沿いの桜を見て歩く。白川は多くの古歌に詠まれており、大宮人が行楽に興じたものである。屋形船が橋下を通る琵琶湖疏水に出て、大鳥居を抜けて

岡崎の疏水風景



かる若王子橋から疏水べりを歩く。

東山第十五峰「椿ヶ峰」へ登る大豊神社を通り過ぎ、東山第十四峰「善氣山」の山裾に茅葺門が立つ法然院へ廻る。三銘椿が評判の浄土宗の寺で、寂靜な風致と情趣が好まれて文化人の奥津城が多い。谷崎潤一郎の墓の上に、紅しだれ桜が咲きそろう。この地を愛した故人を感謝している。

今風の洒落たお店が建つ疏水べりに、老木の桜がたくましい生命力で花を咲かせている。疏水が南から西へ向きを変える銀閣寺橋に来て、観



桜咲く哲学の道

光客と肩が触れ合う門前町通りを東山第十峰「月待山」麓の銀閣寺へ向かう。銀沙灘の名庭園の隣地に、送り火の夜に般若心経を三読する浄土院があり、その大文字寺と氏神八神社の間に大文字山の登り口がある。石碑「行者の森」を見て、小川に沿う山道をたどる。大文字川の白砂を洗う清冽な水は大文字山山域の名水の零であり、法然院の池泉に湧いている善気水や、銀閣寺の義照院殿が茶会に汲んだ水と同質のものであろう。前方に治水砂防ダムが見えて、大文字焼き荷揚げリフト基地の手前

で小橋を渡り、杖代わりに小枝を拾い急坂と向かい合う。尾根筋に上がり、室町時代の戦禍を物語る千人塚の分岐に出る。雑木林が茂る右方の道をとれば大文字の下辺へ通じ、鹿ヶ谷の雲鑑寺からの登山道が合流してくる。きょうは千人塚で左方へ大きく曲がり、表登山道を進んで大の字の火床まで長い石段を登る。弘法大師をまつる石窟に出て、五山送り火の火床に着けば見事な展望が開ける。北方に目をやれば東山第一峰「比叡山」が、眼下に東山第十二峰「吉田山」が、正面には鴨川を隔てて京都御所の森が望める。比叡山から東山第三十六峰「稲荷山」までの東山連峰が京都市街を仕切る屏風で、三井寺へ通じる如意越は京都と大津を結びつける総の道といえる。火床から東方へ歩いて、東山第十一峰「如意ヶ岳」の西峰大文字山(465.4m)に

大文字山への道



登り着く。この日は如意越ではなく、京都一周トレイルを南へ向かう。鹿ヶ谷への道、毘沙門堂への道、コース途中で出会う分岐を見送り、東山第十八峰「大日山」の国有林に包まれた七福思案処に来る。東山第十七峰「南禅寺山」の桜、山科疏水の桜に未練を残し、東山第十九峰「神明山」を背にする京の伊勢宮、日向、大神宮へ足を踏み入ると、山懐に抱かれた門前の平安しだれ桜が花盛りである。表参道を栗田口へくだるにつれ、



円山の枝垂れ桜

琵琶湖疏水と蹴上船溜りの花風景が
視界のなかに飛び込んでくる。桜が
満開のインクライン線路下のトンネ
ルをくぐり、東山第二十峰「栗田
山」麓に建てられた蹴上浄水場の前
に出る。

東海道の道筋にあたる栗田口にあ
り、浄水場敷地に華頂温泉の辻野旅
館が営まれていたころ、明治33年に
「明星」を創刊した与謝野鉄幹がそ
の年の秋、女弟子の鳳晶子と山川登
美子を伴い宿にしたという。鉄幹と

晶子は翌年1月、ふたたび辻野旅館
を訪ね、想い出の栗田山でロマンス
を紡いでいる。

御目ざめの鐘は知恩院聖護院
いでて見たまへむらさきの水

(歌集「夢之華」より)

一夜が明けた時に、東山第二十
峰「華頂山」の知恩院から聞こえ
る鐘の音に目覚めて鴨川へ出かけた
のであろう。晶子の歌にある「むら
さきの水」とは京の川をたとえたも
のであり、歌集「紫」を著した鉄幹
の郷里の川を詠んだ歌であろう。

阪急電車で帰るので、浄水場近く
の蹴上駅を素通りして、神宮道通り
の青蓮院と知恩院を通る。慈円山安
養寺の山号に由来する東山第二十
峰「円山」公園に来て、祇園小唄の
夜桜を心待ちする人波を避け、祇園
御霊会(祇園祭)をつかさどる八坂
神社に廻る。

清水へ祇園をよぎる桜月夜
こよひ逢ふ人みなうつくしき

(歌集「みだれ髪」より)

八坂神社の正門になる南楼門側の
玉垣内に立つ、晶子の「桜月夜」の
歌神を見物した後、四条通りに面し
た脇門の西楼門をくぐりぬけ、鴨川
に架かる四条大橋へ歩く。

春のかぜ加茂川こえてうたたねの
簾のなかに山吹き入れよ

(歌集「舞姫」より)

四条大橋から鴨川に目を向けると、
花回廊のような桜堤が見渡せる。情
熱に生きた晶子の枕辺へ夢を運ん
できた春風が、鴨川の水面を通り橋上
に吹いていた。

(平成21年4月7日歩く)


コースタイム

地下鉄東山駅(20分)平安神宮(35
分)疏水べり若王子橋(25分)法然院
(20分)銀閣寺(40分)五山送り火火床
(25分)大文字山(45分)七福思案処
(15分)日向大神宮(20分)蹴上浄水場
前(35分)八坂神社(20分)阪急河原
町駅

地形図


2万5千II京都東北部

人気商品紹介
◆ウォーキングW◆
2気室切替式短期縦走モデル



オリジナルザック & 登山用品専門店
神戸ザック
<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

イモック山遊行くらぶ
春夏秋冬、季節を気にせず、
里山・低山・名山を訪ねます。
お気軽にご参加下さい。



イモックと
神でずかい

OUTDOOR SPORTS SHOP
IMOCK.
KOBÉ

〒653-0029 神戸市東灘区日吉町3丁目1番30号
カアゾビル2F
TEL (078) 821-5851
FAX (078) 821-3528
営業時間/10:00~20:00 日曜日不営業

・雨蓋内ジッパー付き小ポケット。
・P&Aフレーム内蔵により体型に合わせて形状を変えることが出来、ザックの歪くずれを防ぎます。
・左右サイドファスナー付。片側は内ポケット、もう一方は内部へのアクセス用。
・フロントポケットはメッシュとゴムコード付。
・内部の仕切りフラップの開閉により、1~2気室に切り替えて使い分けが可能に。
・立体裁断により体にフィットし、疲労感を軽減します。

☆32i☆

- カラー イエロー×モノクロ・ワイン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ・ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
- 重 量 1550g
- 素 材 高密度ナイロン
- 価 格 ¥15,750

☆28i☆

- カラー イエロー×モノクロ・ワイン×モノクロ
マゼンタ×モノクロ・ネイビー×モノクロ
レッド×モノクロ
- 重 量 1400g
- 素 材 高密度ナイロン
- 価 格 ¥13,650

湖北

● 三角点を訪ねて⑧
● 敦賀のやぶ山

あさ かげ やま

いな むら

朝影山と稲村ヶ岳

磯部 純

前年の池内山以来、4ヶ月ぶりに高島さんの例会で敦賀の山へ登る。朝影山は、福井・滋賀県境の東、北陸自動車道のすぐ北にあり、地形図に名前の載っていない三角点峰である。この例会がなければ、個人山行では登ることがない山にちがいない。集合時間は、JR新正田駅へいつもより遅い10時。9時30分になるとリーダーが到着する。挨拶する間もなく、開口一番「ザックを家に忘れてきたー」と。すぐに子供にザックを持ってくるよう電話していたが、これまでの山行で、ザックを忘れてきた人に会ったのはひとりだけであまり聞いたことがない。最初からこんなハブニングがあったことから、この先何かが起こりそうな予感がしてならなかった。

参加者は16名。点呼して山の説明が終わっても、いまだザックが届かない。やっとザックが届き、10時10分出発となった。四台の車に列車で来た人を含めて敦賀方面へ向かう。国道8号に出て右折し、曾々木を過ぎると右の道に入って、刀根集落西端にある気比神社の境内に駐車した。この気比神宮は、名前からして敦賀市内にある気比神社の末社に当たっていると思われる。本殿に比べて似つかわしくないほどの立派な鳥居が立っている。準備が終わると、リーダーが「朝影山へ登って、12時までには下りてくれるので、ここで昼食にします。この山だけでは時間が早過ぎるので、北にある稲村ヶ岳へ案内したい」と皆の諒解を得たのち、10時30分に尾

根の先端へ取り付く。地形図を見ると、朝影山まで直線距離で2.4km弱はあり、昼までに戻るには無理だと思いながらも、皆の後について登り始める。この時、下で食事するならと空身で登った人が何人かいた。

取り付きの尾根は、最初から滑り落ちそうな急斜面で枝につかまりながら登ってゆく。すぐ左杉林右雑木林の登りになると、足元にはシユンランが花を開いており、その近くには蕾もある。急勾配がいくぶんゆるくなると、左の杉林が切れ、ミズナラ・リョウブが目につく雑木林の尾根に変わる。尾根には点々と椿の花が続き、冬枯れの林に色を添えている。

いくぶん傾斜がゆるくなった尾根途中で休憩をとる。先頭が歩き始めると、宇治の彼が、「後ろを歩いていた彼女がいらない」と言いだす。そう言えば、私の後を高槻の彼女が登っていたはずなのに、いつの間にか彼女の姿が見えない。登りが遅い彼女のことだから遅れて登ってくるだろうと、守山・宇治の彼、私ともうひとり、彼女の到着をしばらく待つのも人の気配がなく、「オーイー」と呼んでも何の返事も返ってこない。見に行こうかと話していた時、やつ

と彼女が登ってきた。昔から「山へ登りすぎて、足が動かないのだから」と冷やかされていたが、「遅れてしまったけど、マイペースで登ってきただけ」と、我々の心配をそ知らぬ顔で言う。

彼女といっしょに登り始めると、3人の姿はすぐに見えなくなってしまう。登るにつれてササが多くなくなり、やぶの薄い所を選んでササが多くてはならない。フウフウ言いながら重い足を持ち上げて登り、左から右の尾根に出会うと尾根西端で私達が最後の到着だった。見ると先に登った人達がササややぶの中をウロウロしている。「何か落としたのですか？」

朝影山の三角点





と尋ねると、「リーダーに言われて、朝影山の三角点を探している」との返事。どうやらリーダーは、ここを朝影山と勘違いしていたらしい。ここが朝影山なら、登り始めて往復1時間ちよつとで戻ることができ、「神社境内で食事しよう」と言ったことも頷ける。しかし、この地点は朝影山から西へのびる尾根西端のCa460mなので、リーダーに「朝影山三角点はこのササ尾根を東へ700m程行った所にある」と伝えた。

尾根を東へ向かう。比較的平坦な尾根だが、肩まであるササが密生し、やぶをかき分けての歩行となつた。尾根がわずかに北へ振るといくぶんやぶは薄くなるが切れることはない。ササのある疎林の尾根からはこの時期、葉が落ちて見通しがきき、左後方に茶臼山や点名刀根のピークが、右には麻生山や送電線が通っている唐子山や新谷山が見える。ササの薄い所を選んで尾根を東へ30分も行くと、朝影山山頂。北と南からくる尾根交点の平坦な山頂で、まわり

の林で展望は遮られていた。葉の無い今の時期だからこそ、新谷山や唐子山、麻生山が望めたのだろう。三角点は小さな盛り上がりで埋められている。標高515.7m、点名「長洞」で、三等三角点である。標石は、北を向いている。時間は11時45分、リーダーは「ここで昼食にする」と言ったが、「神社で食事をする」との言葉を信じてザックを下に置いてきた6人は、「下りて神社で食事をする」と、先にくだることになつた。

いつものメンバー6人が下りてしまったので話す人もおらず、カップラーメンができるのを待つて、ひたすら食べるしかない。やつと食べ終え、ゆっくりあたりの景色を見ようと思っていると、リーダーがウロウロします。腰に下げた買ったばかりの携帯鋸をどこかへ落としてしまったのだと言う。いつもは昼食をゆっくりとり、最後に歌を合唱するのが恒例だが、この日歌うことはなかった。30分も経つと、もう下山の号令がかかってしまった。12時15分下山開始。登ったルートを下り、杉箸集落を過ぎた所で、頃谷林

やぶを漕いで尾根を西へ歩き、鋸が落ちていないか下を見ながら歩いたが、見つけることはできなかった。先にくだつた6人は、ゆっくりくだったのか10分前に食事を始めたばかりだとか。「早く下り過ぎだ」「もつと上でゆっくりしてこればよいのに」「ご飯を食べる間もない……」とぶつぶつ。



やぶ尾根を歩く

新刊

飛驒の山

— 研究と案内 —

飛驒山岳会 編著 A5判 三三八頁 二六二五円

飛驒百山の案内に、岩場登攀・沢登りも紹介！

山行案内に、笠ヶ岳・錫杖岳の岩場登攀、御嶽西面の沢登り、乗鞍岳と白山のスキー登山の記録を紹介。最近の登山道状況や交通アクセスなど、便利な情報も掲載。



朝影山山頂にて

道を北西へ入る。道は舗装されてお

らずガタガタ。奥へ奥へと走って

くと、水溜まりがあった

り小石がゴロゴロしてい

て走りにくい。急になる

とスリッパして登れない

車も出てくる。皆で押し

て何とか走って、林道終

点近くに着いたのは13時

40分。車を降りて東南の

方向を眺めると、朝影山

より高い所まで車で登っ

て来たことがわかった。

全員ザックを置いて空

身で登ることにする。標

高差1000m程の急な尾

根斜面の登りである。登

山道など無い伐採された

尾根で勾配は急過ぎるほ

どに急。斜面のあちこち

に出ている20cm程の細い

雑木の切り株が何度も足に引つか

る。

10分も登ると斜面が平坦になり、

ここからの展望はこの日いちばん。

左遠くの果境尾根には昨年登った点

名「滝ヶ谷」と送電線が、手前に横

たわる尾根の点名「イヤ谷」と大黒

山の間からは、雪を被った上谷山が

頭を覗かせている。大黒山の右手に

は妙理山があり、その奥に横山岳が

頭を出し、伊吹山の姿も霞んでいた。

南には今登ってきた朝影山が下に横

たわり、その後ろに唐子山、麻生山

も見えている。視線を右手へ振ると、

鉄塔の立っている乗鞍岳や岩龍山の

姿も確認できた。

そんな光景に見とれていると、皆

はすでに山頂を西へ向かっている。

慌てて後を追って西へ向かうと、杉

林の外れから背丈ほどもある密生し

た竹やぶとなる。根曲り竹や細い灌

木をかき分け、50cmも泳ぐように歩

くと切り開きに出た。

そこには四等三角点が埋められて

いる。標高646.6mで、点名は「女

午房」、稲村ヶ岳ともタカノスとも

呼ばれている。四等だけあって、標

石はシッカリと南を向いている。

写真を撮り終えると、すぐ下山に

かかる。15分程で林道へ下り、ここ

で解散となる。

(平成21年3月21日歩く)

コースタイム

JR新正田駅(車15分)気比神社(45

分)Ca460(30分)朝影山(1時間)

気比神社(車25分)頃谷林道終点(20

分)稲村ヶ岳(15分)頃谷林道終点(車

40分)新正田駅

地形図

2万5千Ⅱ中河内

最新刊

琵琶湖の北に連なる山

— 近江東北部の山を歩く —

草川啓三 著 A5判 一六四頁 一八九〇円

歴史に名を残す山、花とバナの山など湖北の山の魅力を紹介。

— 救助・防災必携 —

ロープレスキュー技術

堤信夫 著 A5判 二六頁 二二〇〇円

現場で使えるレスキュー技術を図解入りで手順・方法を解説。

ナカニシヤ出版

京都市左京区一乗寺木ノ本町15
tel 075-723-0111 〒606-8161
www.nakanishiya.co.jp/ 登録商標

新ハイ関西 117号	
標高△△ 17mの山	
早池峰山 (1917m)	岩手
頂仙岳 (1717m)	大峰山脈
釜無山 (2117m)	南アルプス
飯縄山 (1917m)	鈴鹿山脈
小平山 (717m)	鈴鹿山脈

早池峰山

標高の低い所で樹林が切れ、大きな赤い岩が積み重なった独特の風貌の山である早池峰山は、以前より一度行きたいと思いつけていた山のひとつだった。10年程前より毎夏のよるに夜行バスで行き始めた東北の夏の山の四回目の山行が、早池峰山と秋田駒ヶ岳だった。

早池峰山の南向かい側にある薬師岳へ、前日に小田越山荘から登った。しかしあいにくの雨で全く早池峰山を眺めることができなかつたが、その日を薬師岳で過ごしたおかげで、次の日に快晴の早池峰山へ登ることができた。花の名山として名高いだ

けあつて、いろいろな種類の花を見ることができた。尾根も谷も無いよ

うな大斜面に乱立している大岩の間をぬつたり、大きな一枚岩に掛けられたクサリをたよりに登つたりもする、きわめて開放的な雰囲気のみ山だった。(平成13年8月3日歩く)

コースタイム

小田越山荘(3時間) 早池峰山(2時間) 小田越山荘

地図

昭文社「栗駒・早池峰」

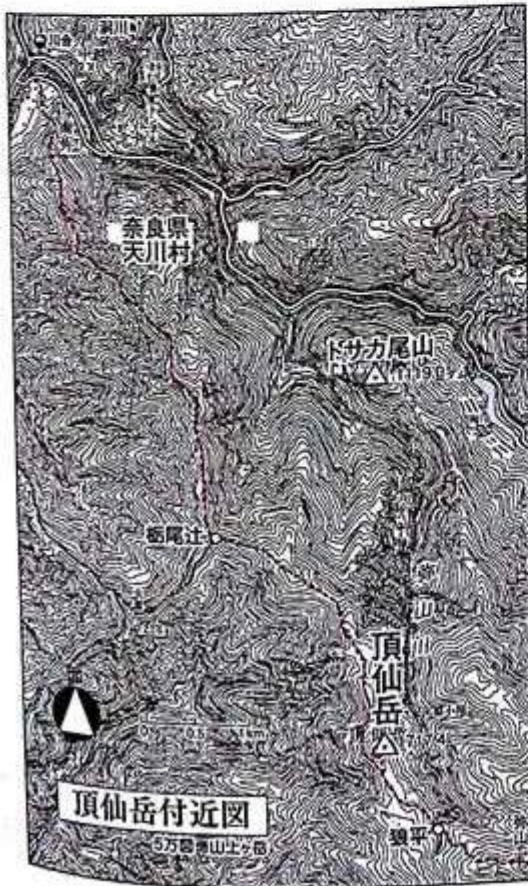
頂仙岳



頂仙岳選拝所より頂仙岳を望む

頂仙岳は天川川合から八経ヶ岳へ登る道のすぐ横にある山だ。八経ヶ岳への登山道は頂仙岳の西側をトラパスしていて、知らない間に頂仙岳の横を通過してしまうことになるのだが、地図に山名があり、また弥山と八経ヶ岳との間にある頂仙岳選拝所から望む姿の美しい頂仙岳を見て、一度登ってみたいと思つていた。

5月の連休に保田さんと八経ヶ岳から釈迦ヶ岳への縦走を2泊3日で計画した際、頂仙岳の山頂に立つことができた。頂仙岳のトラパス道を通じて再び尾根上の道となった所に、頂仙岳への路跡があった。ひと登りで着いた山頂からは、弥仙川の谷を隔てて屹立する弥山北尾根の巨



大きさに瞠目した。象の背中のような丸々とした太尾根上に、まばらに生えた樹木まではっきりと望める展望に圧倒された。その左奥には大普賢岳や桶村ヶ岳などの鋭鋒がひしめき、壮大な眺めの山頂だった。

(平成4年5月3日歩く)

コースタイム

川合(4時間30分)頂仙岳(1時間30分)弥山

地図

昭文社「大峰山脈」

釜無山

かまなしやま

南アルプスのいちばん北に入笠山という無雪期なら車で山頂直下まで行ける展望雄大な山がある。入笠山へは残雪期に当時の国鉄の駅から歩いて登り、その360度の大展望を満喫したことがあったが、入笠山よりひとつ奥にある釜無山から望む甲斐駒ヶ岳や仙丈ヶ岳は少し近づくぶんいいのではないかと思ひ、年始めに計画を立てた。

入笠山への車道を雪の付いていない標高1500mくらいまでタクシーで上り、雪が積もる1700m付近でテント泊した翌日、大阿原湿原の横を経由して釜無山への道に入っ

た。ゆるやかな雪の林道の起伏が続く、地形図をたよりにひとつずつピークを確認しながら、現在地がわからなくならないように進む。

誰も歩いていない雪面だが、足首のすぐ上くらいのラッセルなので特に疲れるということもなく、山頂名板のある釜無山に着いた。テントが張りやすい小さな広場だったが、甲斐駒ヶ岳の展望が良くなかったのもう少し南へ進んでみた。展望を優先に場所を決めたかったから、少なめの積雪でササが隠れてなくて、テントの接地は不安定だった。しかし枯木が乱立する周囲の風情が独特で、そのなかに甲斐駒ヶ岳の尖峰を、入笠山より近づいたぶん克明に見える姿をはめ込んで、大満足した。

(平成11年1月3日～5日歩く)

コースタイム

1500m付近(4時間)釜無山(6時間30分)JR富士見駅

地形図

2万5千「信濃富士見」

飯縄山

いづなやま

飯縄山は長野行き夜行バスのあと、戸隠の村へ行くバスがたくさんあって、比較的アプローチのいい山だ。

山の中で泊まって登ればさぞゆつたりとした山旅ができるだろうと思つて、単独で出かけた。

登山口の戸隠スキー場の脇の林道に入る。続いて林道がふたつに分かれる所に来た。標識が無いので思案したが決め手に欠き、選んで進んだ林道が結局は間違いだつた。目指す尾根が右手上方へと離れてゆき、間違いだと確信した時は、だいたい進んだあとだったので引き返すこともできず、雪の斜面を尾根に向かって登る。雪が相当深かつたので、テント泊の荷物を背負いながら膝で踏み固めては一段ずつ登るといふ、ラッセルのなかでは最も手間のかかる登り方となつた。単独だから進度は遅々としてはかどらないが、日常の雑事から離れ、はるか遠くまで来て雪のなかに遊ぶ開放感がとても心地好かつた。

尾根に出ると今までの深雪が嘘のような積雪量だつた。背後に高妻山が美しく望める森林限界を出たような所でテントを張つた。

しかし、次の日は雪が舞う天気だつた。一步ごとに雪の量が増していくという豪雪だつた。避難小屋を過ぎたあとの広い山頂稜線は真っ白の世界だつた。山頂に立ち、天気が良い

ければ見えたであらう妙高戸隠の山々や北アルプスの方面を眺めたあと、次の機会の楽しみにとっておこうというふうな気持ちでコントローラさせて、慎重に下り始めた。

(平成16年1月2日～3日歩く)

コースタイム

戸隠中社(6時間)飯縄山(3時間)戸隠中社

地図

昭文社「妙高・戸隠・雨節」

小平山

こひらやま

鈴鹿山脈の最も南にある山で、関西本線の柘植駅に近い。山の会のメンバーと3人で西麓の余野公園の駐車場から登つた。

ゾロ峠を経由して小平山から旗山を経て車止めに戻る周遊コースは、常緑の灌木の間に付けられた登山道の展望の展開が新鮮で、短かめの手頃な1日コースの山だなあ、という好印象であつた。

(平成18年6月17日歩く)

コースタイム

余野公園駐車場(2時間)小平山(2時間)車止め

地形図

2万5千「鈴鹿峠」

キナラジ

近江の山 花暦 一冊

山本 武人

陽春に咲く花

陽春を待つて所懐な花は二重に咲きます。シヨウゴウロウ
 八かぞはその中でも一重。かまろりは紫の花らしい。キナラ
 キナラジの淡い紫の花を見た時はほんとうにうれしかった。夕
 ムハは樹の花では山中で自立し、白い花が後継の枝葉に映える。



樹の一面に花が咲くシヨウゴウロウ (御前山)



ツナギの林の中に変じり姿で迎えてくれる (朽木の山)



赤を待たねたよ、赤い花のまはりの花が咲く (御前山)



八重の花を咲かせるキナラキナラジ (御前山)

山の地名を歩く⑤

兎岳うさぎ

西尾 寿一

兎岳の名をもつ山岳が、牛馬や猿などに比べて極めて少ないのは、この国の山野に日常的に棲息し、馴染み深い動物であるだけに奇妙にみえる。逆に見れば、そのあたりに農民が受け得られた恩恵の濃淡が決定的であったかどうかの差を垣間見ることができるようだ。

兎岳の最高峰は南アルプス南部の兎岳で2818mの高峰であり、続いて越後の兎岳(1926m)で、不思議に両者ともに小兎岳という従者がいる。この事実が「兎岳」の名の起りに決定的な証拠を提供していると思う。

南アの兎岳は、赤石岳・聖岳の3000m級の峰の間にあつて軽く見られやすいが、西面の岩場と兎洞の源頭は魅力的で、小生も一時登攀を考えたが未完で終わった。そのとき、地元民から「兎の口は三又なので沢の出合をウサギと呼ぶ場合がある」と聞いた。兎洞がそれとは断定できないが可能性の一部と考えておきたい。

「新日本山岳誌」は兎岳の名は兎洞からとする説を挙げるが「信州山岳百科」(信濃毎日新聞社)は道の説をとる。両者とも疑問点が多い。

越後の兎岳は南アの兎岳とは対照的に豪雪地帯

特有ののっぺりした山容を横たえている。こちらの兎岳の名は、白抜きの兎(残雪期)による説を「新編会津風土記」は述べている。かつて兎岳の名が使われたらしいが、兎と鬼が似ていることの誤字であるとされた。

越後の兎岳は越後山脈の重要な位置を占めており、越後三山・丹後山・荒沢岳からくる尾根の中心に腰を据えていて、積雪期の大縦走の場合、必ず兎岳が拠点となってくる。

兎岳の周辺は、南に利根川、西に三國川、北に只見川を分ける分水域となっているが、いずれも沢登りのメッカである。本邦での沢登りの発達はこの地域が主要な舞台であった。積雪期の日本の脊梁山脈の縦走と沢登りの魅力は、豪雪による山体の浸食活動によるもので、山体の優美さの内奥にすさまじい激しさを秘める。

小生は、残雪期に越後の岳人数名と共に丹後山から兎岳経由で荒沢岳に抜けたのみで、沢筋に入る時間がなかったことを残念に思っている。

同じ越後の「光兎山」(966m)も白抜きの残雪が名の起源とされる。この山は北の鷲ヶ巣山と同じく長く起伏の激しい登路をもつ山でエスケイブ道はない。地元ではコウサギでなく「コーサギ」でありウの音は聞こえない。実は、このウこそが「兎」そのものの和名で「卯」と表現され十支の四番目に当てられ、時計廻りの四番目、つまり「東」の方位が当てられた。

日本の農業は中国の陰陽思想が深く関係している。中国の天文学の理論にもとづき天地を説明し、易や五行思想はそれからの発達であり、日本の古

い時代の習俗に深く浸透してゆく。年中行事の中にその痕跡を多く見受けるが、農村においてその意味は決定的であった。

それを南アの兎岳について考えてみたい。兎岳を東に見る土地は伊那谷である。東に兎岳があり、その中程に卯月山(1102m)がある。卯月とはまさに4月であり、農事が始まる月であった。

赤石山脈のいちばん西に張り出している兎岳こそは、ひよつとすると兎の雪形が残ったのかも知れない。それを伊那谷南部の特に飯田あたりの農民が注意して眺めていた可能性を確かめてみたいのだが、時代が遅すぎた。

兎岳と小兎岳が共に見える立地こそが兎岳の名の発生地に近い。これは越後の兎岳にもそっくり当てはまる。なぜなら南アと全く同じように兎岳は越後平野、特に三國川流域の東に位置するからである。

おそらく兎岳の名は遠く離れてはいるが、はつきり見える平野部の農民が雪解け水の確保によって田植え時期を決する意味で極めて重要なものとして山を眺めていたことに由来すると考えたいのである。

兎岳の名を単に谷名から格上げして名付けられたとする説には賛同できないのである。

山名とはいえ、単なる符合のようなものでなく、人々が自然のなかで生き残るために智慧を絞り苦節を過ごした月日の痕跡が山名に残されていなければならぬとみているのである。日本の多くの山名の起源や由来には、そうした意味が隠されているのである。

吉野警察署管内発生（H22・11・16発見）
奈良県警本部より

遭難体験者手記

この度は、奈良県警の方に大変お世話になり、本当に申し訳なく思っています。今は、生きている実感をひしひしと感じているとともに、遭難当時のこともそうですが、救助された時の喜びが忘れられません。

県警のヘリコプターが来てくれた時は、「本当に神様が来たのか」と思うぐらいうれしかったです。救助されてからしばらくは精神的に落ち込んでいましたが、何とか体調も戻ってきました。

遭難当時は不思議なことに、空腹感も喉の渇きもさほど感じませんでした。それより、日が落ちてからの寒さをいかに凌ぐかをいつも考えていました。助けていただくまで、毎日「朝、目が覚めないのではないか」「このまま死んでいくのか」との絶望感におそわれていたのです。

2日間は山中を彷徨（さまよ）いました。かつて友人から「山で遭難すれば沢に行け。沢には水があるから1週間は生き延びられる」と教えられたことを思い出したので、3日目からは沢で一夜を過ごし、昼間は沢をくだる日々でした。

それに、山中では「もし、ヘリコプターが来てくれても見つけることはできない」とも思いましたので、発見される前の3日間は、視界が開けた沢の大きな岩陰に落ち葉を敷きつめ、寒さを凌い

ていました。

そして、私が遭難して8日目のお昼前、遠くからヘリコプターのエンジン音が聞こえてきたのです。私は「もしかして、自分を助けに来てくれたのでは」と思い、倒れそうになるのも忘れ、近づいてくれることを祈りました。すると、次第にエンジン音が大きく聞こえ、ついに大きな機体が私の上空に現れたのです。

私は持てる全ての力を使い、ヘリコプターに向かって両手を大きく振り、「助けてくれ！」と大声を出しました。しかしヘリコプターはいったん違う場所に飛んでいったのですが、しばらくして、また私の上空に戻って来てくれました。

すると、ヘリコプターから、「こちらは奈良県警です。〇〇さん（遭難者の名前）ですか？」と尋ねてこられたので、頷きながら、両手で「マル」をつくと、さらには、「もうすぐ地上の山岳警備隊が来るので動かずに」とも言われ、私は、「ついに助かる時が来たんだ」と感激で胸がいっぱいになりました。

やがて県警ヘリと連絡をとっていた吉野警察署の方と地元山岳救助隊の方々がやって来て、ウイナーや飲み物、おにぎり等を差し出してくれましたが、絶食状態が続いていたことから食べるに食べられない状況でしたので、食えずに申し訳なかつたです。

その後、わざわざ和歌山から防災ヘリに来て、病院へと運んでいただいたのですが、その間、私は「生きているんだ。本当に生きているんだ」と思わず涙が頬を伝い、生きている実感を得たので

す。

今回のことで、とても多くの人に迷惑をかけてしまい、本当に申し訳なく思っています。特に、県警のヘリコプターが来てくれ、マイク越しに声をかけていただいたときは、「神様の声」に聞こえました。また、遭難中は「死への恐怖」がつきまとい、あと1日山にいたら、おそらく死んでいたことは間違いないと思います。ギリギリの状態でした。

私は今まで滝が好きで、全国各地の滝を観に行きましたが、今回のことで、しばらくは山に行くことを控えたいと思います。また単独で山に入ることには絶対にしません。一度は死んだ身です。ひとりだけでは生きていけないこともよくわかりました。誰よりも命を大切に、今後、生活をしていきたいと考えています。

また、これまで警察は嫌いでしたが、今は交番や警察官を見ると「感謝の気持ち」が湧いてきて、つい、声をかけたくくなります。

実際、この間、〇〇（遭難者宅の地名）にある交番に立ち寄り、お話をさせていただきました。

今後は、警察の皆さんの仕事を応援していきたいと思えます。この度は、本当にありがとうございました。心から感謝をしています。

（註）ほぼ原文通りですが、遭難者の希望により、住所・氏名は伏せています。

●奈良県警本部の地域課（山岳担当）から、この手記を掲載してほしいと要請されました。会員の参考になればと掲載しました（村田）。

Photo essay

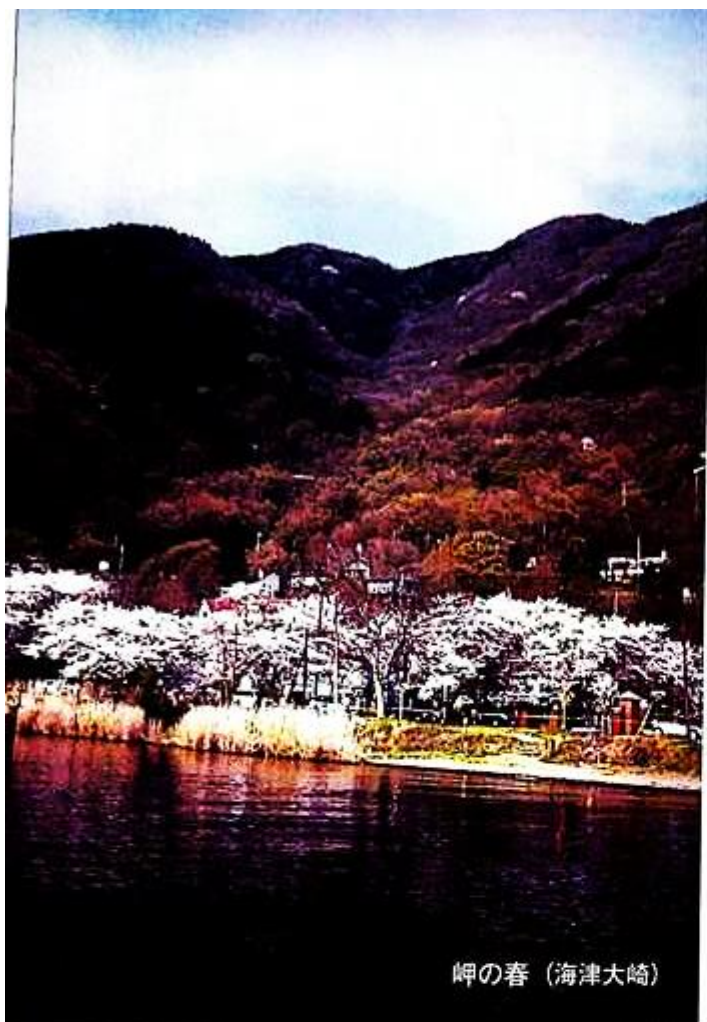
春分



題字 中田 蘭石
撮影 由井 収
文 松永 恵一



春風に舞う（海津大崎）



岬の春 (海津大崎)

かいづおおさき 海津大崎 遅咲きの桜の名所
琵琶湖八景 暁霧海津大崎の岩礁
湖の碧 頂きに雪の残る山々の緑
600本の染井吉野桜が咲き誇り
琵琶湖岸に桜のトンネルをつくる
新鮮で美しい絶妙のコントラスト
春の一時を楽しむ観桜クルーズ
淡いピンクの帯が目に飛び込む
圧倒する息を呑むような美しさ
船はゆっくり速度を落としてゆく
可憐な花がびっしり咲き誇り
疲れを癒すかのように微笑む
樹液で布を染めると桜色に染まる
幹から躍動する力が伝わってくる
脈々と受け継がれている祈りの心



桜並木 (海津大崎)

貴船きぶねに和泉式部いずみしきぶを訪ねて

松永 恵一

貴船神社

「われは玉依姫たまよりひめなり、この船の留
まるところに社殿を建てて、そのの
神様を大事にお祀りすれば国土を潤
し、庶民に福運を与えん。」貴船きぶねに
乗った女神は、淀川から鴨川を廻り
奥宮の地に至り、その地の水神を祀
つたと伝える。

京都市左京区鞍馬貴船町きぶねの山峡に
鎮座する貴船神社。祭神は水を司る
高龍神たかりゅうじん。「延喜式」えんぎしき神名帳に「貴布
棚神社」と記載された名神大社。二
十二社の一社で、正一位の神階を授
けられている。旧社格は官幣中社。
永承元年（1046）7月、出水に
より社殿が流失し現在の本宮の地に
遷座した。元の鎮座地は奥宮とした。
平安の昔から、水の神として朝廷
から篤い崇敬を受け、日照りや長雨、
国家有事の際には祈念がこめられた。

和泉式部

紫式部むらさきしきぶが「口にいと歌の詠めるな
めり」と評した和泉式部は、ほとぼ
しる情熱のままに世間を騒がす恋を
し、ハッとさせるような歌を詠んだ。
男に忘れられて侍るころ、貴布棚に
参りて御手洗川みでたらいがわに螢の飛び侍りける
を見てよめる

ものおもへば沢の螢もわが身より
あくがれいづる魂かとぞみる
（恋しさに悩んでいると、沢に飛ぶ螢も、
あの人恋しさに我が身から離れてさ迷
い出た魂かと思ふことだ）
貴船の神の返歌は男の声にて和泉
式部の耳に聞こえた。
奥山にちぎりて落つる滝つ瀬の
たまちるばかりものな思ひそ
（奥山に激しく落ちる激流が玉と散る
ように、思い悩んではいけない）

〔後拾遺和歌集〕

貴船の神にひたすら折ることで、
恋の苦悩が癒される。

和泉式部は恋多き女として知られ
る。越前守大江雅致の娘として生ま
れ、藤原道長お気に入り、和泉守橘道
貞と結婚し、和泉式部と呼ばれ、娘
の式部しきぶが生まれる。式部は冷泉天
皇の皇子みかど彈正宮だんしょうみや為尊親王と恋仲に
陥る。彈正宮の突然の逝去で憂愁に
沈む式部のもとに弟の帥宮すゐみや敦道親王
が現れる。帥宮は式部に夢中になり、
式部も激しく惹かれる。別荘や牛車
の中で逢瀬を重ね、帥宮は自邸に入
れる。世間の指弾を歯牙にもかけず、
互いの愛だけをみつめていた生活も
帥宮の急逝で終わる。帥宮を慕う挽
歌が「和泉式部日記」「和泉式部集」に
残る。後、藤原道長の娘、一条天皇
中宮彰子に仕え、二十歳も年上の道
長四天王の藤原保昌と再婚する。
鎌倉時代の「沙石集」は、和泉式
部の貴船参拜の様子を詳しく記す。
夫婦和合を祈る巫女が式部の着物の
裾をまくり上げ、陰部を露出させる
「敬愛の祭」をすることを迫る。式
部は拒否する。その様子を物陰から
見ていた夫の保昌は、その態度に感
じ入り夫婦円満になったという。
男に忘れられて貴船を訪れた式部。
「浮かれ女」式部の男とは、……。

貴船神社本宮参道



謡曲「鐵輪」

愛する夫に捨てられた都の女は、
丑うしの刻、森も深い貴船の宮に参詣
する。「身には赤き衣を着、顔には
丹を塗り頭には鐵輪てつりんを戴き、三つの
足に火を燈し、怒る心を持つならば、
忽ち鬼神と御なりあらうずる」との
お告げを受ける。新しい妻を娶った
夫は悪夢に悩まされ、陰陽師安倍晴
明を訪ねる。晴明は茅の人形を人尺
に作り祈禱を続ける。「捨てられて、
思ふ思ひの涙に沈み、人を恨み。夫
をかこち。起きても寝ても忘れぬ思
ひの、因果は今ぞと白雪の、消えな
ん命は今宵ぞ」と女は迫るが、殺せ
ない。捨て台詞を残して逃げ去る。

コース概観

洛北、深山幽谷の貴船溪谷。玉依姫命の黄船から起こったというキフネは、気生根とも書かれた。元気が甦ると運氣が発祥する。貴船の清冽な流れは新しい活力をもたらして行く。二輛編成の叡山電車は、出町柳駅から30分足らずで貴船溪谷の上に乗せられた貴船口駅に着く。

改札口を出て貴船神社と逆に向かい丹塗りの梶取橋を渡る。貴船神社の一の鳥居が建つ。傍らに梶取社が鎮座する。その昔、黄船で鴨川を遡ってきた玉依姫命は、ここ鞍馬川と貴船川の合流点で梶を取り直し、さらに上流へ漕ぎ上がった。貴船神社まで約2。鞍馬寺まで1・5。

貴船川に沿って歩く。清流のせせらぎが耳に心地よい。すぐに和泉式部の歌で有名な蜷岩。源氏螢の見頃は七夕の頃。右に鞍馬山、左に貴船山が迫る。杉や檜の茂る川沿いを木



貴船付近図

漏れ目を浴びながら梅宮橋、蛇谷橋を通り過ぎて行くと、京の奥座敷と称される料理旅館が軒を連ねる。夏は涼を求めて川床が賑わう。

右に鞍馬寺西門、左に貴船神社の二の鳥居。朱の灯籠が石段に沿って並ぶ。南門の脇にそびえる御神木の桂。絵馬発祥の社を説明する黒馬・白馬の像、絵馬掛所。手水舎、秋には貴船菊が彩る。休憩所の龍船閣。鞍馬山の錦繡の彩りが迫ってくる。本殿で参拝。賽銭箱の双葉葵の神紋は、賀茂別雷神社（上賀茂神社）の摂社であった名残。社殿前の石垣からこんこんとあふれ出る御神水。貴船神社は水の神様。おみくじは霊泉に浮かべると吉兆の文字、運勢が浮かび上がる。「梁塵秘抄」の末社の名を言挙げ神々を讃嘆する歌。

貴船の内外座は、山尾よ川尾よ奥深吸葛、白石白髭白専女黒尾の御前はあはれ内外座や

本宮から上流に向かうと山側に結社（中宮）。祭神は磐長姫命。縁結びの神として知られる。和泉式部の歌碑、天の磐船と呼ぶ自然石がある。

さらに上流へ鬱蒼とした杉並木の道を進む。同根に

二本の大杉が寄りそう相生の杉、つづみが岩の巨岩。静寂のなか水音だけが響く。奥宮は玉依姫命が黄船で川を遡り、霊泉の湧き出る所に社殿を建てた聖地。本殿の下には龍神の棲む龍穴があるという。船形石は、黄船を小石で積み囲んで隠したと伝える。根元が楓と融合した連理の杉がある。奥宮は丑の刻参りで知られるが、丑の刻参りは夜参りの一種で、呪詛が目的ではなかった。

産生峠に向けて歩く。滝谷峠への道を分ける奥貴船橋に着く。標識に従い橋の手前を左折し林道に入る。ほどなく林道は終わり山道となる。沢の右岸を登って行く。急坂で荒れている。小さな流れ、石コロや岩がゴロゴロ。水音が大きくなると滝のように水が一気に落ちている。貴船川に注ぐ支流の源流を登って行く。滑りやすい斜面は張られたロープにつかまりながら行く。道がわかりづらいつまらぬ所もあるが、迷うことはない。やがて流れが消え谷筋を離れ、左手の斜面を登ると滝谷峠に着く。

滝谷峠から左折して南に進路を変え、二ノ瀬に向かって山腹を通る快適な歩きが始まる。しばらくして右の貴船山への登り道に入り進む。貴船山には二つの山頂がある。ケルンの

ある貴船山。三角点峰（699.6）はもう少し南。貴船山・三角点峰も展望無し。貴船神社にくだる道を見送り、しばらく行くと「見晴らし良好」と書かれた道標がある。その道を進むが展望のきかない道が続く。辛うじて見えるのは西賀茂あたり。そのまま進むと右下方に二ノ瀬ユリが現れる。ユリとは、ゆるやかなという意味。道標や距離標識も整備されていて、山間の遊歩道といった風情だ。

貴船口駅に下りる分岐に到着。急勾配で落ちるような下り道。観光客が歩いている道路が見えてくる。道路に出て貴船口駅に到着。シャツを着替えて帰路につく。

コースタイム

観電貴船口駅（30分）貴船神社本宮（15分）貴船神社奥宮（15分）奥貴船橋（1時間）滝谷峠（30分）貴船山（50分）二ノ瀬ユリ（50分）貴船口駅

地形図 2万5千＝大原

費用

出町柳駅～貴船口駅 410円

問い合わせ先

貴布禰総本宮 貴船神社

☎075（741）2016

貴船観光会

☎075（741）4444



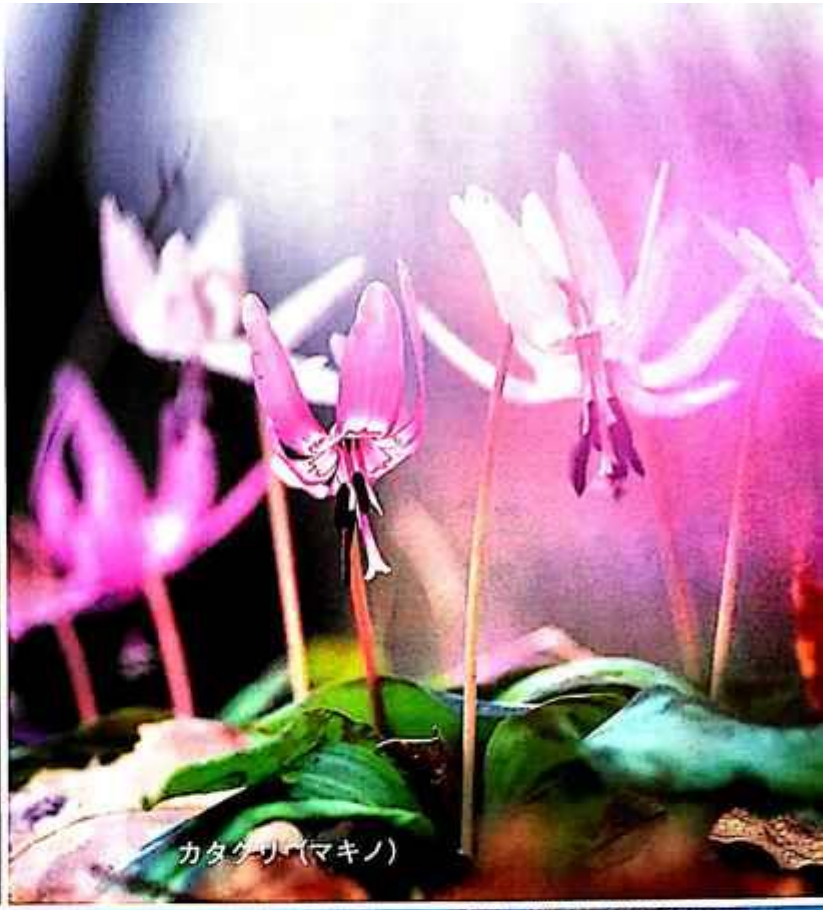
風車村 (新旭)



海津大崎



白カケリ



カタケリ(マキノ)



野ウラボシ(新旭)

京阪神から「青春18きっぷ」での日帰り山行

連載

東海道本線の山

金谷 昭

はじめに

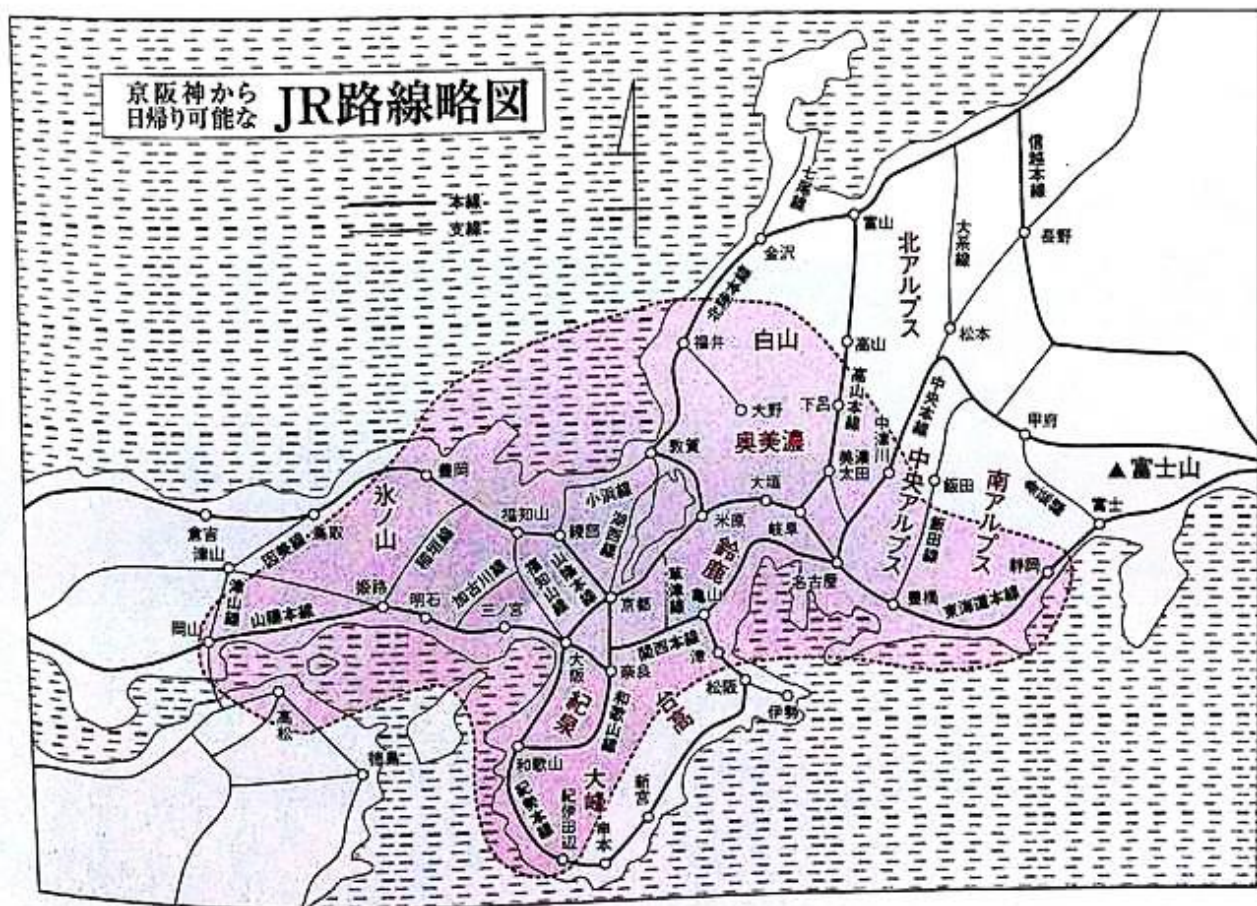
JRの「青春18きっぷ」は、昭和57年（1982）に年齢制限を設けず、主として時間的に余裕のある年末年始、春および夏休みの学生達が手軽に利用できることを目的としたものであった。

発売当初は「青春18のびのびきっぷ」と称し、1日券三枚+2日券一枚綴り8000円であった。その後、1日券四枚+2日券一枚で10000円となり、さらに変遷をたどって今では1日券五枚綴りで11500円となっている。

高齢化、団塊世代が定年を迎えるなど、元気な中高年による旅行や登山が盛んになり、まさに今では「中高年60いきいききっぷ」の感である。筆者も発売当初の現役時代から主

として日帰り山行に利用して京都から遠くの山に登ることができた。発売当初に比べて、一枚で2日間使用五枚綴りのバラ使用ができなくなったり、ダイヤ改正によってローカル線での普通列車の間引きが行われた。一方、主要幹線での新快速や快速普通列車（瀬戸大橋を走るマリンライナー等）の増強と電化によってのスピードアップは救いとなっている。

なお、各本線がかつて存在した夜行快速普通列車「ムーンライト九州」は深夜大阪発の「ムーンライト九州」を利用し、安芸の宮島・弥山を青春18きっぷ一枚で夜行日帰り山行したことがあったが、夜行遠距離高速バスの登場で次々と消え、東海道本線東京・大垣間の「ムーンライトながら」を残すのみとなったのは残念で





青春 18 きっぶで三河本宮山（一等三角点）へ行った

ある。
また、JR下車駅から登山口へのアクセスもローカルバスの減便や廃止が多く、タクシーに頼らざるを得ない。

このように「青春18きっぷ」が利用しづらくなっているが、列車・バス時刻表、山の案内書、地図を綿密に調査して山行計画を立て、今なお「青春18きっぷ」を利用しての遠距離の日帰り山行を楽しんでいる。「青春18きっぷ」廃止の話があると聞か

ある。

筆者の住む京都から、これまで「青春18きっぷ」を利用しての山行をまとめ、各路線ごとに登った山を紹介してみたい。もちろん多くの未到の山があり、JR駅から登山口への交通機関の変遷もあり、読者諸氏の調査を待つものである。

1 東海道本線沿いの山

JRのドル箱路線だけに京阪神と米原間、大垣と豊橋間には新快速普通列車が多く走り、これらを利用すれば行動範囲が大きく広がる。ただ難点は同路線を運営するJR東・西日本会社の違いから米原・大垣間の連絡の悪さがネックとなっている。

イ八高山（832・1㍎ 2万5千
八高山）

大井川沿線の駿遠の山。JR金谷駅にて大井川鉄道に乗り換え、用高駅で下車する。歩いて登山口へ。登山道は明瞭で頂上には白光神社と三角点マニアには垂涎の一等三角点（本点）があり、高度のわりに富士山を始め周囲の展望にすぐれている。登山時間は約4時間程で、京阪神から日帰り可能な東海道本線の最東の

山である。

* 浜石岳（707㍎ 2万5千#
蒲原）

八高山より以東にあり、駿河湾からすぐにそびえ、山頂からの富士山、駿河湾、伊豆半島の展望に優れた山。JR興津駅から登山口の但沼までのバス便は少なく歩けば時間オーバーとなり、往復をタクシーに頼らざるを得ない。

タクシーなら山頂まで登れるのでハイキング登山とは言い難いが、草萌える明るい山頂からの大展望は登山する価値は十分にある。したがって最東の山としては八高山とした。

口神石山（325㍎）坊ヶ峰（44
6㍎）石巻山（350㍎ 2万5
千# 二川・豊橋）

奇怪な岩山の石巻山から昔の姫街道を東進して湖西連峰と石巻尾根分岐に行く。

連峰を北進すれば坊ヶ峰。南進し、一等三角点の神石山を主峰とする湖西連峰を縦走し、途中から葦毛湿原にくだるか、さらに末端まで歩きJR二川駅にくだる。

大垣と豊橋始発の新快速と豊橋市内バスを利用して日帰り二山か三

山の充実した登山が楽しめる。

八富幕山（563㍎ 2万5千#
三河富岡）

JR浜松駅からバスにて奥山か、JR新所原駅から天竜浜名湖鉄道に乗り換えて三ヶ日へ。

さらにバスに乗り換えて終点只木より徒歩だが、バス便が少なくなり、タクシー利用も考えられる。

一等三角点の頂上は展望台その他人工物が多いが、浜名湖や遠州灘の展望は抜群である。

二尉ヶ峰（433㍎ 2万5千#
三ヶ日）

富幕山から南にのびた尾根のピーク。ここでも浜名湖の大展望が得られる。

タクシー利用なら富幕山と同時に登山可能だが、尉ヶ峰のみの場合は、JR浜松駅から遠鉄バスで登山口の三ヶ日国民宿舎下車。

山頂へは奥浜名自然歩道が通じている。山頂往復もよいが、下山はこも自然歩道の通る南尾根をくだって引佐峠から天竜浜名湖鉄道西気賀駅にくんだり、JR新所原駅に出てもよい。

続・近江側から登る鈴鹿の山々 32

滝谷山・大見晴・万野

★★★★★

磯部 純

滝谷山・大見晴・万野をそれぞれに訪ねる案内書は数多くあるが、三山を1日に歩くルートを紹介した本は見当たらない。今回、この三山を踏み、ミノガ峠の車道が出来る前に使われていたユリゴ峠を通る、岩野さんの例会ルートを紹介する。このルートでは出発と下山地が離れているので、置き車が必要となる。

多賀から東進し、霜ヶ原から御池林道を東へ上る。次第に高度を上げ

て近江放の南にある峠下の道広場へ置き車する。そこからミノガ峠へ向かい、峠から南へのびる林道を200m程入った所へ駐車する。

標高点830mの鞍部から尾根にのり、稜線を南へ登ると、尾根にはしっかりとした杉道が付いている。小さなコブを二つ越えようと、路跡は二重山稜の谷へ入るが、谷から左の尾根へ逃げて急斜面を登り、間もなく滝谷山山頂へ着く。

山頂広場には三角点が埋められている。標高877・0mで、点名は「滝谷」。標石は北向きで、北から東へ10度振っている。展望が良く、北には大見晴、万野と続く尾根が連なり、その奥に高室山、鍋尻山が見え、目の前には、鈴ヶ岳と御池岳の山並が迫っていた。

滝谷山からやぶの尾根を南へくだり、巡視路を左へとると送電鉄塔へと出る。鉄塔から東へ斜面を登り、尾根を北東へ行くと尾根分岐。左の尾根を進むと御池谷の源頭へ下りるので、今回は右の尾根を進む。

ゆるくくだって南の送電鉄塔を過ぎ、左へ廻り込むように尾根を行くと、踏跡は消えかかって尾根鞍部へのびる。この鞍部から南の尾根へ登って東へ向かい、次のピークから北へ

滝谷川をくだって尾根を歩く



のびる尾根をくだり、尾根分岐でシヤクナゲが密生する左の急な尾根をくだると、送電鉄塔へ出た。最初に出合った尾根分岐を左へとり、御池谷源頭の谷へ下りて巡視路を登り返してもこの送電鉄塔へ出る。この鉄塔から巡視路を北へくだり、谷分岐から東へ急斜面の巡視路を登り返すと、ミノガ峠に立つ送電鉄塔へ登り着く。

目の前に横たわる鈴ヶ岳・御池岳の姿は圧巻としか言いようがない。鉄塔から下の林道へ下りてミノガ峠へ向かい、峠の北外れから東の尾根へ登る。着いたピークから北へのび

谷からミノガ峠への登り



る尾根をくだるとすぐ、迷うような広い緩斜面の尾根へ出るが、斜面を気にせずまっすぐ北の方向へくだると尾根にのる。

尾根の方向が北西に振ると、右手に広がったゆるい杉林の傾斜地が現れる。さらにくだると尾根は細くなり、岩ガラのやぶ尾根となる。その尾根に登りになり、尾根が斜面に変わると急勾配の登りとなる。

上に行くほどに岩ガラが目立って傾斜がきつくなり、やっと傾斜がゆるくなると、疎林の間から前方にカレンフェルトの大見晴山頂が見えてくる。以前には、岩の山頂は茅に覆



滝谷山・大見晴・万野付近図

われていたが、今では茅は消え、猪に掘り返されて畑状になった山頂へと変わっていた。

大見晴から杉林の斜面を北へくだり、東西に横たわる尾根にのる。ゆるい尾根の北側は雑木林で、林の間から鍋尻山を右手に見ながら、杉林と雑木林の境界尾根を西へ歩く。小さなコブを二つ越えて、ちよつとした斜面を登ると万野山頂。杉と雑木に囲まれた山頂で、山頂広場には三角点而立っている。標高775・117で、点名は「足谷」。三等三角点である。標石は北向きで、北から東へ20度振っている。

万野から急斜面を真北へくだり、西へのびる尾根にのると伐採斜面へ出た。この尾根をドンドンくだり、鞍部にある御池林道へくだる巡視路を左に見て、そのまま尾根を西へ向かう。小さなコブを二つ越え、三つ目のコブが標高点722だ。尾根の西端へ出ると、地形図にある傾斜のゆるい斜面は伐採斜面。目の前にすばらしい展望が広がっている。

ここから少し西へくだり、斜面を捲くように南へ向かい、伐採斜面と林の境界まで来ると道が見えている。伐採斜面の作業道だと思われるが、杉林のなかの道をたどると、御池林



ユリゴ峠

道が境谷を渡った橋から、右岸の林道を1500m程北東へ入った地点へ下りた。

ここからユリゴ峠へ向かうには、林道を東へ登って谷分岐まで歩き、林道を離れて右俣へ入って1500mも奥へ入ると、右手上方に見える尾根鞍部がユリゴ峠だ。斜面に取り付き、消えかかっている昔の峠道を見つけて斜めに登ると、ユリゴ峠へ着く。

ユリゴ峠は、大杉谷からミノガ峠を通って伊勢尾へ向かう仕事道の峠であったが、今ではミノガ峠まで車道が通じたので廢道になっている。峠は深い切れ込みのある立派な峠だった。この峠の名称は、ユリ道から

コースタイム
 近江放南車道峠広場(車15分)ミノガ峠林道(15分)滝谷山(40分)送電鉄塔(40分)ミノガ峠(40分)大見晴(15分)万野(45分)標高点722(25分)滝谷林道(35分)ユリゴ峠(50分)近江放南峠広場

地形図
 2万5千円 篠立・高宮

転化して名付けられたと思われる。峠から北西へのびる尾根を登る。手前のピークを越えると道らしき跡はあったが、いつしかそれも消えてしまう。尾根が西へ曲がり、標高点651あたりまで登ると平坦になり、広い尾根の南端は杉林から離れた雑木の疎林。南は急斜面で展望が開け、目の前に滝谷山から西へ連なる尾根が横たわっていた。

ここから尾根を西へ歩き、送電線をくぐるとゆるい杉の間引きされた斜面。そのまま斜面を登れば標高点678を通るが、ピークを踏まずに斜面を北へ向かうと破線で示されている林道へ出た。林道を左へ廻り込むように西へ歩くと、右下に御池林道に置いた車が見えてくる。

(平成21年5月3日歩く)

旗振り通信の新研究⑧

テレビで紹介された
旗振り通信Ⅲ

柴田 昭彦

平成22年4月12日、「タイムスクープハンター」の「速報セヨ！旗振り通信」が放映されると、インターネットでは、旗振り通信を再現する実験を希望する書き込みが見られるようになった。それでは、過去に、再現実験は行われていないのであろうか？

実は、昭和56年に、旗振り通信の大規模な再現実験が行われているのである。しかし、この事実は忘れ去られて久しい。

筆者は、昭和56年の実験を主宰した吉井正彦氏（当時、博報堂勤務。平成19～21年度は国立民族学博物館客員教授。平成22年4月から日本パブリックリレーションズ協会関西事務局勤務）から、平成12年9月に、昭和56年当時のテレビニュース16本を録画編集した貴重なビデオテープを受け取り、その再現実験の全貌を知ることができ、本誌71号で詳しく報告している。その際、ニュースの内容は新聞記事で補いながら紹介しておいたが、ニュース個別の内容をレポートした資料は皆無である。今回、あらためて、ニュースの概要をお伝えして、参考に資することにした。

【姫路・岡山ルートの再現実験】

旗振り通信に大きな興味を抱き、中継ルートの解明に史上初めて本格的に取り組んだのは吉井氏であった。各種イベントの企画を行う仕事に携わってきた吉井氏の目標は、①明治時代の大阪・岡山間の旗振り中継ル

ートを解明すること、②旗振り通信を再現する実験を実行することの二つにあったようである。

昭和56年8月30日に行われた大阪・姫路間の旗振り通信の再現実験テストと、同年12月6日の大阪・岡山間の再現実験本番の詳細については、本誌71号を参照されたい。【旗振り山】では概要を述べている。

ここでは、吉井氏が録画編集した、当時の再現実験を報道したテレビニュース16本（計44分30秒）の内容を紹介することにした。すべて、昭和56年に放映されたものである。前半7本（24分）が姫路ルート、後半9本（20分30秒）が岡山ルートの報道である。

【姫路ルート再現実験の報道】

①NHK（2ch）「ニュースワイド640」（6月11日、18:40～19:00）

「旗振り通信」の大阪・岡山間の再現実験を行う予定で準備中であり、堂島浜にある堂島米市場の記念像や、中之島図書館所蔵の関係資料などを映像で紹介している。

賢洋一君ら西宮のボーイスカウトの協力によって、各地の旗振り中継地点を实地調査した結果、明石市西部配水場のある場所が旗振りが行われたことがわかった。明石市の土井一夫さんは目撃者の一人で、日露戦争の始まった頃（明治37～38年）に、古い地図に載っている、かつて有名だった金ヶ崎梅林の一番奥で、小屋の窓の中から望遠鏡でのぞき、旗振りをしていただのを見たという。先祖が旗振りであった黒田家には、長さ1.1メートルのフランス製の望遠鏡が残っていた。郷土史家、落合重信さんは、旗振り通信による値上げの事前情報で米を買い占めて、あとから知らせが届き、迅速な情報で利益を上げていたと話す。

姫路ルートの再現（神戸新聞、1981.8.31）



武庫川河畔では、再現に向けて旗の振り方の練習をしているが、高層建築の増加などの影響が心配されるという。

②YTV（10ch）「テレポート10」（8月29日、17:10～30）（読売）

旗振り信号が、西宮のボーイスカウトの手によって、明日、再現される。

堂島浜通一丁目の米市場では、櫓の上で白と黒の旗が振られた（「風俗画報」の堂島の信号の図）。明治時代に使われたフランス製で1.1メートルの望遠鏡（黒田家）が見つかった。1月から通信ルートを調査し、姫路まで100.0のルートの中継地点が判明した。

旗振り通信再現のリーダーである吉井氏は、「旗振り場所の情報は、今日明日のうちに、80～90才位のおじいさん、おばあさんに聞いておかないと、わからなくなってしまう。歴史が残せなくなるので、あせりにあせって調べているところなんです」と話した。

第16団の30名で再現に取り組むが、団員である賢洋一君は「うまくいくかどうかは天候に左右される」と話している。

③NHK（2ch）「NHKニュース」（8月30日、18:50～19:00）

今日「旗振り通信を再現（大阪・姫路）する」テストが行われた（82、13カ所中継地点。大阪堂島から発信し、武庫川（尼崎）を経て、麻生山（姫路）までの実験であった。企画した吉井さん（36才）は、現在では、高層ビルやスモッグによって見通せなくなっている地点があるが、本番では是非、成功させたいと話している。

今日、西宮ボーイスカウトが、旗振り通信の再現に挑戦した。松下電器のCMでは旗振りを監修している。茨木高原ゴルフ場の記念石碑を紹介。明石での聞き取りによって、先祖が旗振りをしていったという黒田さん宅で、使用した望遠鏡を発見できた時には感動した（巽君の話）。旗振りの話は歴史文書に残されておらず、神社をたずね歩いて見つけたという。堂島から姫路まで13の中継基地を結んで実験を行った。平均距離は7*。明石と加古川の間は12・2*もあり、本当に見えるかどうか心配していた。武庫川と金鳥山の間がどうしても通らず、見えなかった。

④MBS（4ch）「毎日新聞テレビ夕刊」（8月30日、18:50~19:00）（毎日）

⑤SUN（36ch）「サンテレビニュース」（8月30日、18:30~52（サン））

吉井さんはボーイスカウト30人の協力を得て、大阪堂島から姫路の麻生山までの再現実験を実施した。第1報は尼崎で途絶え、姫路からの通信も神戸で途切れた。直線距離で大阪から145*という岡山まで、旗振りによって20分で伝えたという記録が残っている。

⑥YTV（10ch）「テレトック10」（8月31日、17:10~30）（説光）

「旗振り通信再現」100*のコースが、西宮ボーイスカウトの手で再現された。巽君によると、金鳥山と諏訪山間が難関で、最長距離区間の金ヶ崎と池尻の間は12*もあるという。旗振りでは、右で十の位、左で一の位を表す。11時30分に通信開始、12円15銭の米相場が送信された。5分後、武庫川堤防（尼崎市）で双眼鏡により受信、15分後には高取山（神戸市須磨区）

に到着、35分後には最終地点の麻生山（姫路市）に到着したが、風や天候の影響を受けて、米相場は35円36銭と元の3倍に増えていた。アナウンサーは「スモッグのない当時はうまくいったんでしょね」とコメントしている。

⑦YTV（10ch）「ズームイン朝」（9月3日、木、07:00~08:30）（説光）

小林大作がレポートする。兵庫県西宮市武庫川堤防からの中継。川の向こう側の兵庫連盟西宮地区ボーイスカウトの皆さんに対して、大作が呼んでも通じないため、旗で合図したところ、旗で返事が返ってきた。代表の巽君らによると、大阪堂島と姫路・麻生山の間100*を35分で中継して、秋の再現に向けてのテストを行うことができたという。こちら側で、旗により10（右で1回振って十を表し、左は水平に振り動かしてから戻して零を表した）を示し、向こう側で3本の白旗が同時に9回振ってくれて、「と（10）く（9）三つで「徳光」を表現したのは、お笑いの余興であった（東京の徳光さんにズームイン）。

- 1 堂島（米相場誌）
- 2 桶島（大阪データ通信局ビル）
- 3 金葉寺別館屋上
- 4 武庫川堤防
- 5 金鳥山（高さ24mの鉄塔。ここではスモッグと強風で受信不可。無線使用）
- 6 諏訪山ピーナス・ブリッジ（受信不可。勝手に決めた相場を送信）
- 7 高取山
- 8 梅尾山
- 9 玉津療養所（受信不可）
- 10 金ヶ崎山（受信不可）
- 11 池尻（受信不可、送信可）
- 12 北山奥山
- 13 麻生山

⑧ABC（6ch）「おはよう朝日です」（12月2日、07:08~30）（朝日）

旗振り通信が70年ぶりに再現される。吉井さんは、須磨の旗振山に登り、看板を見て興味を抱いた。西宮のボーイスカウトの協力を得て、再現しようとしている。170*、25中継地点を結んで、岡山の旭川西岸まで、50人が協力して行う予定で、同時に電報も打って旗振り通信と競争する。

⑨MBS（4ch）「JNNニュース」（12月6日、11:45~12:00）（毎日）

堂島米相場跡の大阪から岡山市京橋町まで旗振りを再現する試みが行われる。本番に備えている。電報も同時に打たれる。

⑩ABC（6ch）「ANNニュースライナー」（12月6日、11:45~50）（朝日）

旗振り通信が大阪・岡山間の26中継点で再現される。午前10時から行われている。岡山まで30~50分かかるといふ。吉井さんがボーイスカウトと協力して行うもので、8月の試みは悪天候で失敗に終わっている。中継地点間の平均距離は6・2*。双眼鏡を用いる。

岡山ルートの再現（サンケイ新聞、1981.12.7）

④ABC(6ch)「ANNニュースレター」(12月6日、17:30-55)(朝日)

「米の相場はこうして伝わった」

堂島・岡山間(167.26中継点)におよそ50人を配置して、再現実験が行われた。米相場33円24銭が発信された。少しもやがかり、神戸では数カ所で見聞き取りができず、金鳥山に信号が届かなかった(金鳥山では鉄塔に体を縛り付けた)。昔は空気が澄んでいたことがわかる。地点間の遠いところでは11.9余り、平均6.2であった。

10時05分に打たれた電報は、10時26分に岡山に届いていた。午前10時に発信された信号は12時20分に岡山に届き、2時間20分かかった。それも、無線を用いて、独自に発信して中継されたものであった。

アナウンサーは「ユニークな試みも、スモッグに阻まれ、現代では、もはや通用しませんでした。しかし、昔の人の苦勞が偲ばれる旗振りの再現でした」とまためている。

⑤MBS(4ch)「毎日新聞テレビ夕刊」(12月6日、18:50-19:00)(毎日)

旗振り通信を再現する試みが西宮ボーイスカウトおよそ50人によって大阪・岡山間で27地点を結んでリレー式に行われた。阪神間の一部で、もやなどのために見通しがきかず、無線の力を借りた区間があった。電報と競争したが、電報は20分で着いた。

⑥MBS(4ch)「JNNフラッシュニュース」(12月6日、20:55-21:00)(毎日)

米相場を知らせる旗振り通信の再現実験が大阪・岡山間27ポイントで中継された。70年ぶりの再現であった。もやに包まれて、兵庫県の一部で、トランシーバーを使わざるをえなくなった。電報の20分にはどうしても及ばず、苦勞して、2時間20分後に着いた。

⑦ABC(6ch)「おはよう朝日」(12月7日、07:15-08:30)(朝日)

昨日、25の中継点でつないで旗振り通信が2時間余

りで再現され、ほぼ成功した。西宮地区の団員50人が赤白黒の旗を用いて行った。阪神間ではスモッグで視界が遮られて無線を使ったが、明石・岡山間は順調で、2時間前後で伝わった。電報の20分に差はつけられたが、通信は思ったよりも順調で、今度の試みは成功したと関係者はコメントしている。

⑧RSK(11ch)「イブニングニュース」(12月5日、17:30-)(山陰)

明日行われる旗振り通信再現の試みを紹介する。旗振りには、縦1は、横2の旗で、右1回で10、左1回で1を表す。大阪・岡山間167.26を中継して再現に取り組むのは西宮市の郷土史家、吉井正彦さんである。和気郡日生町寒河、天狗山の麓の民家には当時使われた遠眼鏡が残っている。それは、小林一恵さんの祖父、岡竹治が旗振りをするときに用いたものである。孫娘の一恵さんによると、「子供の時はあまり聞いていないんですけど、天狗山の山頂で、米相場を西の山から受けて、東へ送っていた」「給料を岡山まで戴きに行っていたそうです」という。

どこからでも見えるため、途中で通信内容を盗まれてしまったという話もある。日生町の郷土史家、石橋澄さんによると「ここで受けたものを備前へ送っていた」「誰かわからないし、笑い話なのかもしれないが、日生町の鳥山で、天狗山の信号を盗んで、大変な金儲けをした人がいたと聞いている」のだという。ここからは、次のポイント、岡山市の芥子山に引き継がれる。岡山では、郷土史家の桑島一男さんが待機して信号を待つ。桑島さんは「文献で岡山まで40分、もう一つの本には15分とある」「今日はおもやが出ていて心配だが、明日は何とか決行できるのではないか」とコメントした。

⑨RSK(11ch)「朝のホットライン」(12月7日、07:50-)(山陰)

昨日、旗振り通信が70年ぶりに再現された。岡山の天気は曇り時々晴。大阪堂島の米相場を各地でいち早

く知ることが米商人の儲けのポイントであった。当時、最も速い通信手段として、明治の終わり頃まで行われていた。

吉井さんが、大阪・岡山間167.26に、27のポイントを設けて中継した。昨日の西日本はもやに包まれて見通しが悪く、トランシーバーを使わざるをえなかった。電報での20分には到底及ばなかった。アナウンサーは「文明の力ですね」と電報の威力についてコメントした。岡山市京橋(終点)には、発信からおよそ2時間20分後に伝わった。

最後には、アナウンサーが「昔は、のろしだったんですね」とコメントしている。

◎岡山ルートの中継地点(28カ所)

1 堂島米相場跡(北区堂島浜1丁目)

(主権者の吉井正彦さんが待機)

0.6 km (地点間の最短距離)

2 福島(電々公社大阪データ通信局ビル、北区堂島3丁目)

(高さ120 m、24階テラス東面で受信、ビル内を走り西面で発信)

7.0 km

3 金楽寺(尼崎電報電話局金楽寺別館屋上)

3.8 km

4 武庫川・堤防上(尼崎市西大島・成文小学校の横)

(尼崎市大島2丁目、左岸堤防上)(受信可、スモッグ・モヤのため、堤防上では次への送信が不可となり、堂島から直接、金ヶ崎へ、アマ無線で送信してもらう)

4.0 km

4B 西宮市役所屋上(西宮市六湛寺町)

5.7 km

5 金鳥山(神戸市東灘区本山町北畑)(424 m)

(鉄塔に体をしばりつける)

4.8 km

6 六甲道(神戸市灘区、メイン六甲屋上、六甲道駅南)

(好条件の場合は省略)

5.7 km

奈良 音羽山

11月6日(出) 〇中 照行

*申込者少数で中止しました。

紀伊 果無山断續走

(週末ハイク115)

11月6日(出) 〇7日(回) 1泊2日

(6日 晴れ) (集合) JRR新大阪駅7・40 (バス) 安堵山登山口11・30 (昼食) 12・10 安堵山12・30 35 P1150 13・00 和田ノ森13・40 55 果無登山口14・50 55 丹生ヤマセミの郷15・10 (泊)

(7日 くもり) 宿舎6・55 (バス) 安堵山登山口7・25 40 黒尾山8・15 20 冷水山8・55 9・10 10 カヤノグン 9・45 公門のツエ10・10 20 公門ノ頭10・45 50 筑前タワ11・10 P1117 11・30 (昼食) 12・05 ミヨウガタワ12・15 P1150 12・30 源助の墓分岐12・40 100前森分岐12・58 100 13・00 10 石地力山13・35 40 果無山14・05 果無峠14・10 観音堂14・30 35 天水田15・00 果無峠登山口15・20 国道168号登山口15・50 柳本橋16・00 10 (バス) 近鉄橿原神宮前駅18・45 (解散)

秋晴れの紅葉が映える尾根道を歩き、縦走路登山口へ下山し、美肌の湯に入浴後自炊。暗くなつてから、全員で地元神社の祭り前夜の御輿迎え行事に参加し、お神酒をご馳走になった。2日目、歩き始めに小雨がぱらついたが30分程でやみ、冷水山からは見事な雲海が眺められた。前日同様、紅葉を楽しみながらのふかふかの尾根道を歩き。ブナ・ヒメシヤラのコントラストや、黄葉して長々と南へ枝をのびたブナの大木が印象的だった。

参加者

- 安井昇太 宮野哲郎 岡崎知子
岩村春子 須藤浩子 佐々木輝子
岡本正明 入江 勲 北川さゆり
石田里美 浅野 剛 松原真由美
西上利和 石川 鉄 船本裕巳子
小林 桂 朝倉谷雄 竹内正子
〇仲谷礼司 〇狩野東彦 (計22名)

御池岳を巡遊

(鈴鹿を歩く343)

11月7日(回) 晴れ

(集合) 鞍掛トンネル西口広場8・10 鞍掛峠8・40 鈴北岳10・05 元池10・20 夕日のテラス10・45 丸池11・00 風池11・25 ボタンブチ11・40 幸助の池11・45 (昼食) 12・40 南峰12・55 丸山13・20 真ノ池13・50 北池14・00 三ツアの森14・30 P1056 14・55 広場16・00 (解散)

御池岳にはまだ誰も見たことのない池がひっそりと眠っているような気がする。錦秋にあふわしい1日、オオイヤマイゲツが枯れ葉を落とし、池の水面にシダの緑と共に映り込む。年輪を重ねたメンバリーの縁取りが美しい。オブションは三ツアへの散策。三本のブナの大木は赤みを帯びて紅葉し、冬仕度に成りはなかつた。(中澤美香子)

参加者

- 高杉 博 宮村信夫 中澤興司博
水戸鉄治 栗本敏夫 中澤美香子
森村 守 多田 徳 吉岡うた子
谷 守 小林 修 一芝美知子
木下朝子 栗岡克子 白木やす子
大西修郎 西村敏夫 居原田幸弘
池田繁美 〇一芝義雄 〇後藤康幸
〇岩野 明 (計24名)

湖北 大黒山から妙理山

11月7日(回) 晴れ

(集合) JRR京都駅7・40 8・00 (バス) 椿坂峠10・20 30 大黒山11・20 30 南尾根巡視路出合手前ブナ林11・50 (昼食) 12・30 巡視路出合12・40 南東尾根分岐12・50 水場14・00 妙理山14・30 45 椿坂八幡神社16・10 30 (バス) JRR米原駅17・30 (解散)
椿坂峠から大黒山への急登はつらかったが、妙理山へ南下する尾根道

無名湖・松代大本宮・園田一徳史跡カイド・松子岳・西阿山・山・牧場・バードウォッチング 1泊2食6000円(上田)25分 曹平高原

フチホテル リすの森

〒368-0122 2004
長野県上田市曹平高原スイス村
0268-0174 1220000
http://www.fuchihotel.com/new

日光・日光の登山に便利なバス・タクシーの「新所」を、ご予約いただければ早朝出発可能。中間タクシー5人・ジャンボタクシー18人・マイクロボス(28人)・中級バス33人 等各種ご利用いただけます。
バス・タクシー 三英自動車株式会社
電話 0268-54-1111 1111
ファクス 0268-54-1322 2226

ロッジ・アジュール

〒368-0104 01
長野県長野市西堀水368-0104
026-254-1307 254

ホテルむつみ 竹藪

〒368-0101 01
長野県下高井郡山内町志賀高原一の原
0269-34-2700 06
http://www.styke.com/p/musumi/

長野県メイトルハイム

〒368-0104 01
長野県長野市戸狩通東スキー場
0269-155-2008 888
0269-155-3123 3
http://homepage2.nifty.com/longevu/

は平坦で黄葉真っ盛りのブナ林をたどり、青空の下で気持ちのよい汗を流した。帰路は高速道の事故渋滞のため長浜インターで降り、米原駅で解散した。

山(妙)の火床に廻る。入山許可に手間とったが、山上に登って京都市街の展望を楽しむ。帰路は氷河期からの生物が生存するといわれる深泥池に寄る。

休憩舎 9・50〜10・00―地蔵峠 10・20
25―カベヨシ 11・35―岩谷峠北西側鞍部
12・00(昼食) 13・00―岩谷峠 13・15―
三国岳 14・05―20―茶屋跡 15・00―10―
桑原橋 16・00―15(バス)京都市駅 18・35(解
散)

参加者

- 後藤智之 多賀久子 渡部和美
荒木光雄 梶原泰彦 安田文美江
小石浩子 兼子衣代 小池一郎
林 義朗 磯部 純 松上美代子
繁田広美 岩佐 修 中川光郎
木内範文 吉野榮子 村岡雄志郎
長沢佑美 林 正義 中川善弘
北村 正 井上恭子 砂原恵美子
市岡晴美 岩田育士 橋本紀代子
堅田 弘 金岡慶子 嘉瀬井 豊
岩本彩子 吉村富式 松尾一郎
村瀬和美 ○安倉正勝 ○村田智俊
(計38名)

参加者

- 三井敏一 兼田幸子 吉野榮子
渡辺いく 浅野 剛 別所 昊
田中美子 岡本和子 山本幸子
若林和人 森嶋靖子 橋本 彰
清 紀嘉 武村千鶴 中嶋日出男
宮崎紀正 長沢佑美 林 久美子
宮本民子 夏山春子 柴田慶一郎
堀江房麿 坂根義子 福島 昭
木村 登 加藤浩二 守田光太郎
岩城豊子 後藤純子 佐々木輝子
前田初雄 前田邦子 金森節子
谷 守 中田将一 栗岡克子
○本間 隆 ○青木一雄 ○沖 伸
○仲谷礼司 (計42名)

針畑川の谷道、生杉谷の紅葉は見頃であったが、地蔵峠から稜線へ出る
と名残の紅葉となっていた。所どころで
真つ赤な紅葉が残っていたが、
周辺の舗織りなす山々の展望が黄砂
のために悪くて残念だった。

参加者

- 岩村春子 岡崎知子 佐々木輝子
川田洋子 山根弘美 大嶋 勉
岩城豊子 道広直輝 堤 良男
遊谷節枝 岩佐 修 蓮井洋子
加藤浩二 竹内正子 武部美美子
石川 巖 林 正義 船本裕己子
竹中忠久 木村 豊 相生村京子
狩野東彦 栗栖崇吉 ○仲谷礼司
(計24名)

**送り火の山、
妙・法の山から深泥池**

(ゆっくり歩こう12)

11月10日(休) 晴れ

(集合)地下鉄松ヶ崎駅10・00―湧泉寺
10・30―大黒天10・50―法の火床11・10
―25―宝ヶ池11・40(昼食)12・30―妙
の火床12・50―13・10―深泥池13・20―
14・00―貴船神社14・15―地下鉄北山駅
14・40(解散)

送り火の山、妙・法に關係する湧
泉寺を訪ねてから、東山(法)と西

**大峰
トサカ尾山**

11月11日(休) ○西上和

*バス定員未滿で中止しました。

**高島トレイル⑩コース
朽木地蔵峠から三国岳**

(週末イハク116)

11月13日(出) 晴れ


(集合)JR京都駅7・40―45(バス)生杉

**余呉トレイル
湖北 大黒山**

11月13日(出) 晴れ

(集合)JR木之本駅8・45(車)橋坂峠9・
20―大黒山10・25―35―東峰11・30(昼食)
12・20―南尾根鉄塔12・50―橋坂峠14・
15(解散)

11月に14年振りの黄砂に見舞われ
たが穏やかな1日で、汗をかきほど

<p>京都・貴船の山梨川魚と川床料理 貴船山・嵯峨山・鴨王岳・金剛山 嵯峨山などハイキングコースに 夏は京都市送迎バス、登山口送迎 源流の宿 兵衛 料理旅館 兵衛 〒601-1112 京都市左京区鞍馬貴船町1-0-1 電話 075-1741-3066 F 075-1741-3166 http://www.hyogoe.com/</p>	<p>八ヶ岳の真ん中、「ほつ」とする新ストープと 権威ある美味いおそばなしの山小屋 オーレン小屋 〒359-10213 長野県茅野市豊平2472 電話 0266-121-279 お得意情報満載の情報はHPにて http://www.oren.net</p>	<p>入浴する猿と天然記念物噴泉 温泉で作る名物ちまきと山菜 地獄谷温泉 楽 館 〒381-0400 長野県下高井郡山ノ内町志賀高原 地獄谷温泉 電話 0269-33-4376</p>	<p>国立公園大山登山口に近い 名物大山おこわ・蕎麦 国民旅館 大山館 〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山22 電話 0859-52-2531 F 0859-52-6062</p>	
--	---	---	---	---



御池岳の幸助の池にて (一芝義雄)



果無山脈冷水山頂にて (岡本正明)



鎌倉山からオグロ坂峠へくだる (森井 潔)



大黒山三角点 (中澤與司博)

11月14日(日) くもり
 (集合)JR京都駅7・40(バス)坊村8・40
 9・00―もみち平9・35―45―平10・05
 15―鎌倉山11・00―15―千年杉11・30
 オグロ坂峠手前ピーク12・00(昼食)12・40
 オグロ坂峠13・00―峰床山13・45
 14・00―俵坂峠14・30―ナメ

鎌倉山から峰床山

(京都北山歩き141)

●参加者の感想
 ●大黒山へは急登から始まる。ブナの巨樹に出迎えられ足下にはウリハダカエダ、エンコウカエダ、ホソエカエダの落ち葉が深く登路を覆っている。稜線一帯は一面のブナ林がどこまでも広がっている。上谷山を始め、台形状の安蔵山、妙理山が青く横たわっている。秋彩の尾根を愛でながら山を後にした。(中澤與司博)

参加者
 志水明美 中澤與司博
 川島勝美 平塚明美 中澤美香子
 小栗大直 鮫田二郎 白木やす子
 堀江房麿 貴堂雅路 光川二美子
 西田俊治 金谷 昭 ◎高島伸浩
 (計14名)

の陽気だった。大黒山から東峰間は見事なブナ林。黄葉は盛りを過ぎたが、晩秋の風情たっぷりのブナ林を楽しんだ。二本のブナの巨樹にも圧倒された。

11月17日(水) 晴れ
 (集合)京阪本駅本観光案内所9・30
 ケーブル坂本駅10・00(ケーブル)延暦寺駅10・10
 25―浄土院10・50―釈迦堂

北山トレイル東部1
 比叡山から大原

(ゆっくり歩こう13)

参加者
 須藤浩子 松上美代子
 島田 廣 岩城豊子 林 義明
 繁田広美 塩尻香織 小谷和子
 鈴木恒男 兼子衣代 小池一郎
 吉野榮子 大川直澄 山崎みよ子
 川島勝美 松村雅子 村田はる江
 田尾 聖 山内玄次 西島芳洋
 森井 潔 森井順子 岩田育士
 松浦 巖 若松朝子 岡田かよ子
 牧 和夫 若林和人 名加恵美子
 川島榮子 武村千鶴 久保田玲子
 多賀周二 多賀久子 小野和良
 夏山春子 稲津謙治 丸山敏之
 ◎岡本正明 ◎村田智俊 (計40名)

ラ谷林道終点15・00―10―峠定寺15・45
 16・10(バス)地下鉄北大路駅17・30(解散)
 山麓は紅葉真っ盛り、紅・黄葉のなかに鎌倉山へ登った。山頂付近はすでに落葉して展望が良い。鎌倉山から峰床山まではアップダウンの連続、最後にナメラ谷への急下降道が続いた。落ち葉を踏んで歩く感触は北山ならではの風情ある山歩きであった。

11・20―玉体杉12・00―横高山12・20(昼食)13・10―水井山13・35―仰木峠14・30―大原バス停15・30(解散)

この時期の比叡山は紅葉の真っ盛り。ケーブルを利用して上れば楽な気分です。尾根道が歩ける。横高山と水井山への登りに苦勞しながらも、比叡山を遠くに見ながらまず歩は完歩を目指した。

【参加者】

- 兼田幸子 林 義朗
内田康夫 水富律子 大林 進
森嶋靖子 卷田 晃 柴田慶一郎
夏山春子 川上久堅 金谷 昭
本間 隆 本間 黎子 福島 昭
妹尾公代 木村 登 木村恵子
八木爽子 高田京子 岩崎キワ子
加藤浩二 堀家洋子 中川光郎
手島幸子 金森節子 谷 守
大野宣子 中岡昌子 ○沖 伸
○仲谷礼司 (計30名)

大窪 大川口から鉄山

11月18日(木) くもり

(集合)近鉄橿原神宮前駅8・05―10(バス)大川口登山口10・00―サンゲ平11・40―鉄山12・10―サンゲ平12・40(昼食)13・15―大川口登山口14・30(バス)橿原神宮前駅16・15(解散)

サンゲ平の霧氷は感動的だった。寒さが身に凍みたが、季節の移り変わりを五感で感じた。

【参加者】

- 渡部和美 佐々木輝子
稲津謙治 入江 勲 志水明美
石田里美 岩澤裕子 緒方由子
三井紘一 萩野暢子 林 正義
池田隆一 信吉 優 池田美恵子
別所 昊 森藤哲良 村田はる江
首藤育子 浅井良三 砂原恵美子
多田 徳 道広直暉 ○下郡正年
○西上利和 (計24名)

(参加者の感想)

●登山口からいきなりの急登が続く。1400m付近でいくぶんゆるみ、霧氷が現れた。振り返ると高く見えていたトサカ山が左下に低く見え、前方にバリゴヤの頭が見えてきた。残念ながら稲村ヶ岳・大普賢岳・行者還・弥山などは雲の中。サンゲ平の雑木林は霧氷に覆われ、いっぺんに冬の到来を感じた。新緑か紅葉期にブナ林を再訪したいものだ。(多田 徳)

湖東 津田山(金曜里山ハイキング33)

11月19日(金) 晴れ

(集合)JR近江八幡駅9・30―40(バス)長命寺バス停10・00―10―長命寺本殿10・20―30―長命寺山11・10―15―津田山直下大岩展望台11・50(昼食)12・20―津田山12・30―天之御中主尊巨岩12・40―林道出合13・00―10―捲道コース―国民休暇村「近江八幡」14・00(入浴)15・26(バス)近江八幡駅16・10(解散)

山中で岩野さんと合流し、津田山手前の大岩展望地へ案内してもらった。晴天の青と湖上の青がすばらしく、その間に比良連峰が浮かぶ絶景であった。落ち葉道を休暇村にくだり、温泉で汗を流した。

【参加者】

- 林 義朗 中江南海雄
鈴木恒男 渡辺いく 岡本和子
中辻勝子 西嶋芳洋 若林文夫
荒川義子 山根弘美 森実喜美子
岩野 明 ○村田智俊 (計13名)

高島トレイル⑥コース

おにゅう峠から駒ヶ岳西尾根

(週末ハイキング)

11月20日(土) 晴れ

(集合)京都駅7・40(バス)おにゅう峠10・00―10―根来坂峠10・30―白石山10・35―百里新道分岐10・55―11・00―百里ヶ岳11・25(昼食)12・20―P711―12・55―木地山峠13・05―10―桜谷山13・35―P765―14・05―与助谷山14・20―30―駒ヶ岳西尾根分岐15・00―10―焼尾東谷出合16・05―木地山バス停16・15―25(バス)京都駅18・55(解散)

おにゅう峠からは若狭の海も見え、すがすがしい気分がたつたため霞んで遠望は今ひとつ。稜線はすっかり落葉し、ブナの落ち葉を踏みしめての歩きとなった。駒ヶ岳西尾根のくだりはまだ紅葉が残っていて西陽に映えてな

かなか見応えがあった。

【参加者】

- 岡崎知子 守田光太郎
白鳥忠子 大嶋 勉 池田美恵子
繁田広美 蓮井洋子 村田はる江
中川光郎 川戸せつ 相生村京子
里見純生 松村雅子 石倉真佐子
藤本紀子 小西節子 岡田かよ子
高橋舞治 岩本彩子 船本裕巳子
馬淵晶子 ○仲谷礼司 ○狩野東彦
(計23名)

雨ヶ岳

(鈴鹿を歩く34)

11月21日(日) 晴れ

(集合)藤切谷旧林道入口広場8・00―桜地蔵8・45―奥ノ畑谷入口9・20―サワグルミ大木10・10―奥の畑峠11・20―雨乞岳12・10―西雨乞岳12・30(昼食)13・14―15―避難小屋15・30―広場16・35(解散)

雨乞岳は鈴鹿の竜が憩う場所。藤切林道から奥の畑谷の長くゆるやかな傾斜を登る。シオジの大木もすっかり葉を落とした。先人の痕跡を道案内にササ原の急登を登ればそこは天空真つ青。鈴鹿の稜線、鎌・御在所と見渡せる。西雨乞岳で昼食後、枯れ葉の積もる尾根をたどり、裸木の樹間を一気にくだる。足を停めて沢に目をやれば、たゆたう枯れ葉に想像上の生物竜の姿が垣間見えた。(中澤美香子)



雨乞岳 奥ノ畑峠 (西村敏夫)



鉄山ザンゲ平にて (多田 徳)



東床尾山山頂 (森井 潔)



雨乞岳 奥の畑谷にて (一芝義雄)

11月21日(日) 晴れ
 (集合)JR新大阪駅7:40 (バス)糸井川
 溪谷不動滝10・10→30 羅漢谷源頭
 南尾根平坦部11・20→30 西床尾山12・
 00 (昼食)12・40 東床尾山13・35→45
 糸井の大カツラ14・50→15・00 駐
 車場15・10 (バス)よふと温泉「極楽湯」

【回顧】西床尾山から東床尾山

●雲ひとつない快晴、尾根からはさ
 えきるものない雄大な景観が待っ
 ていた。清水の頭、綿向山、眼下に
 は野洲川ダムも、鎌ヶ岳も鋭く尖っ
 ている。西尾根のササ原で昼食後、
 落ち葉を蹴散らし、木につかまりな
 がら急斜面を下りた。晩秋のやわら
 かい光に山肌が染まりゆくのを惜し
 みつつ、薄暗くなった頃家路につい
 た。
 (中澤與司博)

- 後藤康幸 ○岩野 明 (計34名)
- | | |
|--------|--------|
| 井上恭子 | 鈴木恒男 |
| 多田 徳 | 小野和良 |
| 稲津謙治 | 武村千鶴 |
| 滝川 登 | 上野秀夫 |
| 永戸鉄治 | 栗本敏夫 |
| 森村 守 | 山田景三 |
| 青木一雄 | 西村敏夫 |
| 大西脩郎 | 小松志信 |
| 木下朝子 | 岩本彩子 |
| 山口充代 | 寺井博子 |
| ○後藤康幸 | ○岩野 明 |
| ○一芝義雄 | ○中澤與司博 |
| ○中澤美香子 | ○小川富士雄 |
| ○奥野太一郎 | ○白木やす子 |
| ○加納由紀子 | ○石田眞由美 |
| ○吉岡うた子 | ○居原田幸弘 |
| ○一芝義雄 | ○中澤與司博 |

●快晴に恵まれ風も穏やかで快適な
 尾根歩きだった。東床尾山は、西床
 尾山・鉄鉆山を含め糸井三山と呼ば
 れるそうだが、標高840m程度で
 あまり目立つ山ではない。しかし、
 周囲に高い山が無いので、東は大江
 山から、西に氷ノ山、南に粟鹿山と
 いった山々が望める一等三角点から
 360度の展望を楽しむことができ
 た。西床尾山登山口から金鉆掘用につ
 くられた川沿いの作業道を上る。

【参加者の山行記】

- 官野哲郎 ○安倉正勝 ○村田智俊 (計23名)
- | | | |
|-------|-------|-------|
| 多賀久子 | 渡部和美 | 佐々木輝子 |
| 繁田広美 | 小池一郎 | 松上美代子 |
| 石田里美 | 塚本忠次 | 武部美美子 |
| 岩村春子 | 梶原泰彦 | 久保田玲子 |
| 市岡晴美 | 佐藤和子 | 西谷真実子 |
| 萩野暢子 | 大和 絃 | 三野 旭 |
| ○官野哲郎 | ○森井 潔 | ○須藤浩子 |
| ○安倉正勝 | ○村田智俊 | |

羅漢谷から分かれると直登の尾根
 となって西床尾山へ突き上げる。山
 頂は広く、大展望のゆったりランチ
 タイム。東床尾山への縦走はアッパ
 ダウンの少ない落ち葉道。一等三角
 点の東床尾山を踏み、大カツラに下
 山した。入浴しての帰路は高速度の
 大渋滞で新三田駅で解散した。これ
 ぞ秋晴れの日だまりハイクと言って
 よい。

途中、二俣手前から右岸に渡り、杉植林の急な支尾根を50分程登り、ちょうど正午に西床尾山に到着。昼食。山頂は広く木陰になる松や杉が多くて全体を見渡す展望は無いが、明るい日差しが気持ちよい。東方の大江山の右奥に特徴ある青葉山の双耳峰を見つけて感激した。

東床尾山への落ち葉を敷きつめた冬枯れの尾根道は、歩きやすく見通しのよい快適なアップダウン。下山は急な植林の山腹のジグザグ道で足がふらつくくらい、一気にくだって植林を抜けた川べりで休憩。川沿いにまだ残る紅葉を見ながらさらに15分くだると糸井の大カツラ。ストックやスパッツを外し、バスの待つ林道合流点に向かった。(森川 謙)

三郎ヶ岳から北倉峠

(火曜ハイク75)

11月23日 晴れ くもり

(集合)JR八木駅8:20→24(バス)旭8:33→松尾神社→登山口9:10→北側尾根取付9:45→北側尾根→三郎ヶ岳12:30(昼食)13:20→出雲橋登山口分岐12:45→南側尾根→北倉峠13:45→出雲大神宮14:45(解散)

北側尾根への取付点は例木が多く相当に荒れているが、尾根道は落ち葉の上で気持ちがいい。三郎ヶ岳か

ら南下する尾根は、一部分岐に惑わされる箇所はあるものの道ははっきりと残っている。パラグライダーの飛行場からの半園山の山並が唯一の展望となった。

参加者

- 須藤浩子 林 正義 中嶋日出男
 - 森井 潔 磯部 純 山崎早智子
 - 若林文夫 川上久堅 橋本圭之輔
 - 金谷 昭 中山 治 船本裕巳子
 - 小川明美 川島榮子 武部美英子
 - 岡崎知子 寸田 崇 柴田慶一郎
 - 林 義朗 長沢佑美 塚本忠次
 - 志水明美 小石浩子 鮫田二郎
 - 竹田善英 ○加納由紀子
 - 青木一雄 ○沖 伸 ○仲谷礼司
- (計31名)

大所山から1335峰

11月23日 晴れ くもり

(集合)近鉄橿原神宮前駅8:05→10(バス)林道終点登山口9:20→岩清水10:25→尾根出合→大所山11:20→1284峰→1335峰→岩場12:10(昼食)12:50→女郎ヶ岩→琵琶の滝遊歩道出合→林道終点登山口14:20(バス)橿原神宮前駅15:45(解散)

登山口からガスに覆われて山頂付近で晴れるのを期待したが、終日展望のきかない霧のなかを歩いた。北から吹きつける風と寒さに震え、

早々に下山した。

参加者

- 別所 昊 渡部和美 渡谷節枝
 - 竹村英樹 鳥田 廣 稲津謙治
 - 繁田広美 狩野東彦 小川富士雄
 - 竹内正子 岡本正明 佐藤優美子
 - 中江憲子 加藤浩二 中江南海雄
 - 池田 茂 松村雅子 山野志保江
 - 片桐良子 浅井良三 杉本多美雄
 - 竹田勝英 ○下都正年 ○西上利和
- (計26名)

美濃 養老山

(平日ふれあいハイク76)

11月25日(木) 晴れ

(集合)JR京都駅7:40(バス)養老の滝上駐車場9:45→10:00→三方山11:15→25→笹原峠11:35→小倉山11:45→養老山12:00→小倉山12:15(昼食)13:00→笹原峠13:08→もみじ峠14:15→滝上駐車場15:15→養老の滝見学15:45(バス)京都駅17:50(解散)

滝上駐車場は標高3000mもあり、三方山までの1時間程が急坂であるとはしんどい登りなし。道は丸木でしっかり整備されており遊歩道を歩くようだ。小倉山は展望良いが養老山は展望無し。もみじ峠から滝上駐車場までの下山林道は早足1時間で着いた。養老の滝は、紅葉美しく晩秋の味わいがあった。

- 和田直樹 渡部和美 北川さゆり
 - 岩澤裕子 今泉 勲 大園加代子
 - 中川光郎 妹尾一正 守田光太郎
 - 志水明美 小栗大直 平 幸子
 - 木内範文 林 義朗 鈴木恒男
 - 岡本和子 渡辺いく 岩本彩子
 - 西嶋芳洋 松浦 巖 平田輝英
 - 寺井恒夫 若林文夫 ○川上久堅
- (計24名)

鈴鹿 鬼ヶ牙・白杵ヶ岳

11月27日(出) 晴れ

(集合)JR石山駅7:00(車)石水溪登山口9:03→P488→9:50→鬼ヶ牙10:11→長坂の頭11:18→舟石12:35(昼食)13:20→長坂の頭14:33→石水溪16:01(車)石山駅18:20(解散)

第二名神の鈴鹿トンネルを過ぎ、すぐ左手に目指す鬼ヶ牙から長坂の頭の岩峰と山並を瞬間見ることができ、登山意欲が湧いてくる。鬼ヶ牙山頂はさほど苦勞せずに到着し、絶景を堪能する。長坂の頭からの急坂は緊張の連続であった。舟石で最高の景色を見ながら食事した。白杵ヶ岳を周遊する予定だったが、日暮れが早いことで往路を戻ることとした。

参加者

- 多田 徳 具比裕美
 - 高橋舜治 平塚明美 山縣勝美
 - 山縣 隆 上野秀夫 ○中 照行
- (計8名)



大所山にて (竹田勝英)



霧の大所山尾根 (西上利和)



石鐘山の霧氷 (古賀慶二)



石鐘山の登山道にて (古賀慶二)

山行記 船山と高屹山 (星屋の山74)

11月27日(出) 晴れ

(集合) JR西枝原駅 8・15 (車) アルコピ
アスキー場 10・30 船山 10・45 高屹山
登山口手前 11・20 登山口 11・40 右折
れ岩 12・00 広場 12・20 (昼食) 12・45
高屹山 13・05 登山口 13・50 (車) 西
枝原駅 16・50 (解散)

船山は簡単に済ませ、高屹山は3
60度の大展望で登ってよかった。
御嶽が雪できれいに見え、北アルプ
スの上部はガスであった。

参加者

- 石井照雄 伊藤恵美子
広瀬重見 国井文男 神谷恵美子
高橋洋子 萩野暢子 ○山田明男
(計8名)

四回 石鐘山

11月27日(出) 28日(回) 1泊2日

(27日 晴れ) (集合) JR三ノ宮駅 8・
35 (バス) 伊予西条駅 13・33 (バス) 石鐘
ロープウェイ前 14・40 (ロープウェイ) 成
就 14・50 玉屋旅館 15・20 (泊)
(28日 くもり) 旅館 5・35 八丁 5・
55 前社ヶ森 6・45 7・00 夜明け 7・
12 20 二ノ鎖小屋 7・43 鉢山 8・10
天狗岳途中 9・25 夜明け 10・10 天
柱石 10・15 25 土小屋分岐 11・45 52
八丁 13・10 成就 13・30 40 (ロープ
ウェイ) 石鐘温泉 14・15 (入浴) 15・00

ロープウェイ前 15・17 (バス) 伊予西条
駅 16・10 (バス) 三ノ宮駅 20・40 (解散)
参加者 林一夫 塩尻香織
首藤育子 村田はる江 ○古賀慶二
(計5名)

(参加者の山行記)

●早朝、ヘッドランプを点け出発す
る。昨夜の強風はおさまり、冷え込
みも想像ほどではない。凍結してい
る鎖場を避け、捲道を行くがスリッ
プしそうで気が抜けず、脚にも余計
な力が入る。弥山では、風が強くな
り、完全にガスを覆われていた。石室の
中で完全防寒の身支度に整え、目の
前に天狗岳がパッと姿を現してくれ
るのを待ったが、ついに逃わす。そ
の間、天狗岳への鎖場にリーダーが
ロープを張り、我々もアイゼンをつ
けて岩場を降りることができ、充実
感を味わえた。

下山は、必見の「天柱石」を目指
して迂回コースへ。静かで趣のある
コースだった。木の梯子や棧橋が
次々と現れ、足が痺みそうにもなっ
たが、景色の変化は飽きることがな
い。天柱石は言わずもがな。思わず
「日本庭園」「黒滑滝」などと勝
手に名付けてしまった場所もあり、
そこではティータイムを楽しんだ。
下山後、バス停すぐ傍の「石鐘山
温泉」に浸かり温まる。温泉らしい
白濁した湯だったが、もともと16度
の冷鉱泉で透明。沸かして空気に触
れると白濁した湯になるという驚き

の温泉だった。(村田はる江)

大窪 清水峰

11月28日(日) 晴れ

(集合) 近鉄橿原神宮前駅 8・05→10
(バス) 奈良教育大登山口 9・45→十坪平
10・20→鉄塔分岐 11・15→清水峰 12・20(昼
食) 13・00→九号鉄塔 13・30→鉄塔分岐
→十坪平 14・35→奈良教育大登山口 15・
00 (バス) 橿原神宮前駅 16・55 (解散)

尾根ルートから谷ルートにコース
を変更したが、谷沿い道は落ち葉の
絨毯で足に優しく歩きやすかった。
またまたコース変更して山頂まで道
無き道を急登し、昼食時に間に合わ
せた。

参加者

沖 伸	渡部和美	
小栗大直	志水明美	松原真由美
川村信子	石田里美	松上美代子
兼子衣代	三輪直文	砂原恵美子
植村信子	岩田育士	前川和佳子
西村静子	原 幸子	名加恵美子
桜庭 栄	市岡晴美	吉岡うた子
岡本正明	稲津謙治	○下郡正年
○西上利和		(計24名)

(参加者の山行記)

●最初の休憩地点の十坪平はベンチ
もあり、小休止に絶好の場所だ。武
加者のひとりがストックをその場に大
休止させた。ストックは主が迎えに

来てくれるのを、じっと待って…待
って…(数時間)。再会できた時、
全員「よかったね」「すごい」と
歓声があがった。自然のなかの清々
しい山行でした。(川村信子)

阿武 電王山から阿武山

(金曜里山ハイキング34)

12月3日(金) くもり一時にわか雨

(集合) 阪急茨木市駅 8・40→55(バス)丁
R 茨木駅 9・05(バス) 忍頂寺 9・45→
10・00→電王山 10・45→55→穴仏 11・20
→岩屋 11・35→車作→清水寺跡 12・00(昼
食) 12・50→竜仙峠分岐 13・05→桜並木
林道→武士自然歩道合流 14・00→10→阿
武山 14・45→55→桑原橋 15・20→25(解散)

電王山から車作集落へ下山後、昼
食が終わる時に突然の雨にわか雨に置
き、寺の屋根下で待機した。新国道
が出来、ダンプ行き交う道路を歩く
のを止め、桜並木林道を迂回して武
士自然歩道と合流して阿武山に登っ
た。山頂で記念撮影して下山した。
里山をのんびり歩く手頃なコースだ
った。

参加者

後藤智之	村岡雄志郎	
河内正治	西嶋芳洋	宮崎由美子
若林和人	木下朝子	中嶋日出男
大林 進	関口博子	柴田慶一郎
林 信男	林 義朗	大園加代子
巻田 晃	大野宣子	村田はる江

綿向山・奥草山・政子

(鈴鹿を歩く345)

12月5日(日) 晴れ

(集合) 国道477号蔵王ダム広場 8・00
(車) 平子峠→奥ノ平 8・45→五合目 9・
20→行者コバ 9・40→綿向山 10・25→ブ
ナの木平 10・50→熊野峠 11・45→P 8
11・12→20(昼食) 13・15→奥草山 13・
30→政子 13・45→奥草山 14・00→奥草山
林道入口 15・00(解散)

綿向山は二つの顔をもつ。頂上直
下の奥草山・政子へ続く破線入口は
ブナが林立し、岳人を5歳児に変え
る。やがて稜線はガレ場となり、冷
や汗をかいてやせ尾根を通過する。
水無と綿向が北に肩を並べ、西に鎌
ヶ岳の鋭鋒が天を刺す。奥草山、政
子は綿向山の懷に抱かれている。枯
れ葉を踏みならし下山した。(中澤美香子)

参加者

鈴木恒男	中澤美香子	
山内玄次	武村千鶴	中澤美香子
稲津謙治	高橋舜治	小川富士雄
金谷 昭	滝川 登	吉岡うた子
宮村信夫	貴堂雅路	栗本敏夫
木下朝子	池田繁美	山田景三
永戸鉄治	森村 守	池田隆一
栗岡克子	岩本彩子	青木一雄
谷 守	小松志信	奥野太郎
山口充代	上野秀夫	一芝美知子

阿武 陣ヶ峰から城本山

12月5日(日) 晴れ

(集合) 近鉄橿原神宮前駅 8・05→10(バス)
コンピラ峠登山口 9・45→陣ヶ峰 10・00
→天狗木峠(古道入口)→的場山 10・35
→点名・上垣内→鐘割江→城本山 12・00
(昼食) 12・45→砂ヶラリ峠→紀和トンネ
ル 14・00(バス) 西吉野温泉「きすみ館」(バ
ス) 橿原神宮前駅 16・35(解散)

快晴の陣ヶ峰山頂からは高野山や
荒神山がよく見えた。参加者の希望
によりの場山と点名・上垣内(△9
56・5.5)にも立ち寄り、大師が歩
いた古道をのんびり歩いた。帰路に
「きすみ館」で汗を流した。

参加者

多賀久子	渡部和美	
長沢佑美	志水明美	松上美代子
狩野東彦	小栗大直	中江南海娘
大平 漸	田中 操	大園加代子
三輪直文	中川善弘	横山真由子
岩田育士	山本幸子	船本裕巳子
梶原泰彦	浅井良三	緒方由子
○下郡正年	○西上利和	(計22名)

忘年山行

鈴鹿 烏帽子岳

(嵐山の山75)

12月5日(日) 晴れ



奥草山にて (一芝義雄)



阿武山にて (村田智俊)



烏帽子岳にて (山田明男)



城本山にて (下都正年)

12月11日(出) くもりのちにわか雨
 (集合) JR小野町駅 9・40、45、岩倉
 時 10・35、45、紅山 11・10、15、紅山北

小野アルプス縦走

(週末ハイク118)

**送り火の山2
 船形の山から釈迦谷山**

12月8日(休) 仲谷礼司
 *雨天のため中止しました。

- | | | | | |
|------|-------|-------|-------|--------|
| 山田明男 | 佐治 登 | 佐治光江 | 砂原恵美子 | (計27名) |
| 高原芳彦 | 鈴木 浩 | 鈴木友子 | 長坂佐知子 | |
| 中條公子 | 若林文夫 | 白木やす子 | | |
| 春見重美 | 安藤ユウ | 山野志保江 | | |
| 馬場桂子 | 吉田峰子 | 西谷眞実子 | | |
| 中神恵子 | 島田 廣 | 神谷恵美子 | | |
| 国井文男 | 三井絃一 | 伊藤恵美子 | | |
| 廣瀬重見 | 廣瀬恵美子 | | | |

快晴で少し暑いくらいであったが、わりと早い時間で登ってくださった。新しい道はわかりやすいが、急な登りが多かった。

(集合) JR関ヶ原 8・00 / 三岐西野尻駅 8・00 (車) 細野登山口 8・30 / 烏帽子岳三角点 10・05 / 最高点 10・10、30 / (往路) 細野 11・30 (車) 忘年会場 11・40 (昼食忘年会) 15・15 (車) 関ヶ原駅 16・10 (解散)

12月12日(出) くもり一時雨
 (集合) JR近江塩津駅 9・50 / 祝山登山

**余呉トレイル
 湖北 太平良山・神明山・堂木山**

- | | | | | |
|------|------|-------|------|--------|
| 狩野東彦 | 呉比裕美 | 朝倉松雄 | 仲谷礼司 | (計30名) |
| 植村信子 | 小栗大直 | 下都正年 | | |
| 岡本正明 | 川村信子 | 松原真由美 | | |
| 三野 旭 | 森井 深 | 大平 漸 | | |
| 小林 桂 | 西上和和 | 浅野 剛 | | |
| 金谷 昭 | 小川明美 | 佐々木輝子 | | |
| 加藤浩二 | 岡崎知子 | 船本裕巳子 | | |
| 馬淵晶子 | 山縣勝美 | 久保田玲子 | | |
| 西村文男 | 平田輝美 | 小川富士雄 | | |

天気の変化が早く、紅山を登る前に雨が落ち始めたが、岩場に取り付く頃にはやんでくれたので滑落の危険も無く全員登り切った。小雨がぱらつくなかで昼食をとった後、小さなアップダウンを繰り返して白雲谷温泉に到着。ここでいったん解散し、ほとんどの人が入浴後レストランでミニ忘年会を行った。

登山口 11・30、35 / 徳山 (小野富士) 11・55 (昼食) 12・45 / アンテナ山 13・00 / 総山 13・10 / アザメ峠 13・20、30 / 安場山 13・55、14・00 / 愛宕山 14・10 / 前山 14・20、25 / 高山 14・50、15・00 / 白雲谷温泉「ゆびか」 15・10 (解散)

口10・25—太平良山11・25(昼食)12
 ・25—権現峠12・50—林道13・05—明神
 山13・50—堂木山14・25—余呉駅15・30
 (解散)

近江塩津駅から登山口の祝山まで
 は国道8号や集落の中を歩く。祝山
 から太平良山まで熊の糞や足跡に導
 かれる。太平良山四等三角点で昼食。
 権現峠からの茂山、明神山、堂木山
 は「賤ヶ岳の合戦」の折に秀吉軍の
 武將達の營跡である。柴田勝家軍の
 守る行市山を目の前に対峙。余呉駅
 に着いて5分で電車がきた。

- 【参加者】
 荒木光雄 松上美代子
 平塚明美 若林文夫 神谷恵美子
 磯部 純 堀江房麿 川島勝美
 木下朝子 岩本彩子 谷 守
 石原君子 栗岡克子 白木やす子
 神野孝允 ◎高島伸浩 (計16名)

湖北 金養岳から白倉

12月12日(日) 晴れ
 (集合)JR京都駅(バス)鳥越林道岐阜側
 積雪箇所10・30—金養岳登山口11・00—
 稜線11・20—金養岳12・00—白倉12・30(昼
 食)13・10—金養岳13・40—登山口14・
 25—40(バス)京都駅17・30(解散)

高山キャンプ場からの鳥越林道が
 一部崩壊しており、一般車通行禁止
 なので八草トンネルを抜け、岐阜県
 側から鳥越林道に入った。途中、積

雪で凍結しておりバスが登山口まで
 行けず、約20分歩いて岐阜側の登山
 口に行く。出発が11時となったので
 白倉までの往復とし、花房尾根の下
 山はカットした。晴天に恵まれ、雪
 の山頂からはすばらしい展望で、往
 復コースだけでも皆さん満足された。

- 【参加者】
 多賀久子 沖 伸
 藤本紀子 岩村春子 水見真砂子
 福本愛子 後藤智之 稲津謙治
 川田位子 中川光郎 島田 廣
 後藤純子 繁田広美 塚本忠次
 兼子衣代 塩尻香織 川戸せつ
 鈴木恒男 竹内正子 西谷真実子
 蓮井洋子 小谷和子 相生村京子
 片桐良子 井上恭子 砂原恵美子
 多田 徳 岩田育士 北川さゆり
 道広直輝 三好満子 小野和良
 萩野暢子 伊丹耐子 市岡晴美
 柳 明子 ◎狩野東彦 ◎宮野哲郎
 ◎安倉正勝 ◎村田智俊 (計40名)

忘年山行 京都西山 保津川舟曳き道

12月15日(木) 晴れのちくもり
 (集合)JR保津峡駅9・30—41—トロッ
 コ保津峡駅9・57—大岩10・15—トロッ
 コ保津川鉄橋10・50—JR保津川鉄橋下
 11・32(昼食)12・15—嵐山妙見登山口
 13・20—嵐峽館13・35—嵐山渡月橋14・
 15(解散、忘年会)

今秋一番の寒波の米穀であったが
 幸い時雨、強風も無く心配していた
 流水量も少なく、岩面も乾きスリッ
 プ事故は避けられた。前日、サブリ
 ーダーの谷氏のルート整備のおかげで
 多人数に拘わらず事故なく見込みよ
 り早く到達できた。未踏の人が多く
 紅葉見物には少し遅かったが異色の
 山歩きを楽しめたようである。例年
 通り嵐山渡月橋公園にて有志多数に
 よる忘年会は山行不参加の飛び入り
 も交え、大いに盛り上がった。

- 【参加者】
 浅野 剛 松上美代子
 三井絃一 山本軍司 渡辺いく
 岡本和子 小林 桂 山本幸子
 西嶋芳洋 若林和人 中嶋日出男
 武村千鶴 中山 治 加藤浩二
 中川光郎 清 紀嘉 守田光太郎
 金森節子 富田満子 小坂さゆり
 青木良夫 大林 進 村田はる江
 平塚明美 川上久堅 小川富士雄
 岩本彩子 布施清美 船本裕巳子
 青木一雄 須藤浩子 砂原恵美子
 岩村春子 中岡昌子 林 久美子
 渡部和美 後藤純子 加納由紀子
 松本忠雄 川島勝美 久保田玲子
 柳 良雄 夏山春子 山盛加奈子
 塚本忠次 和田直樹 白鳥忠子
 後藤智之 石原君子 多田 徳
 加藤國計 木下朝子 沖 紀子
 本間梨子 ◎磯部 純 ◎沖 伸
 ◎本間 隆 ◎谷 守 ◎金谷 昭
 (計59名)

白眉 木椋山から加杖坂峠

12月16日(木) くもり時々小雪
 (集合)近鉄橿原神宮前駅8・05—10(バス)
 木椋林道・展望休憩所9・45—登山口
 10・40—木椋山11・40(昼食)12・10—
 梅尾13・05—岳山14・00—加杖坂峠16・
 30(バス)橿原神宮前駅17・30(解散)

粉雪が舞う尾根道を歩き、震えな
 がら食べた山頂での昼食。コースを
 間違え、何度も登り返しつらいつの思い
 出に残る山だった。

- 【参加者】
 志水明美 木内範文
 川戸せつ 三井絃一 岩澤裕子
 竹村英樹 小栗大直 中江南海雄
 池田 茂 中山 賢 相生村京子
 渡部和美 岡本正明 道広直輝
 川俣 勲 萩野暢子 前川和佳子
 今泉 勲 飯島 啓 福井登彦
 浅井良三 ◎竹田勝英 ◎下都正年
 ◎西上利和 (計24名)

【参加者の山行記】
 ●気象情報では、寒気団が南下する
 ので各地ともこの冬一番の寒さにな
 るとのこと。高見トンネルを出たバ
 スは、すぐにR166から右に分か
 れ、木椋林道に入る。幸いゲートが
 開かれていたので、奥へと進み展望
 休憩所で停車した。先は少し長い
 小雪が舞うなか、水墨画のような雪
 景色を楽しみながら木椋山登山口ま
 で歩く。



白倉岳にて (道広直暉)



金糞岳にて (道広直暉)



加杖坂峠へ細尾根をくだる (下都正年)



雪の木槻山登山口 (下都正年)



木槻山にて (下都正年)

衣服調整をした後、我々は支尾根をほほまっすぐに登り始める。雪は時に固く丸みを帯びてきた。霧混じりに変わり気温が下がってくる。稜線にはブナやヒメシヤラの細い木々が白い絨毯から立ち上がり、一幅の絵になっている。1100mあたりで小休止。雪は止んできたが横風が厳しく頬に当たる。木々の小枝には、尖った霧氷が風上に向けて整列している。後、山頂まで一気に登る。風を避けて昼食をとる。記念写真を撮り梅尾に向かう。やがて雪は止んだ。しかし、風は依然として冷たく強い。カッパの上からウインドブレーカーを重ね着し進む。稜線の視界が開けた所からは、高見山トンネルを出た所にあるループ、そして、続く木槻林道が見え、また、目を上げると、高見山から三峰山に至る薄雪の稜線も遠望できた。やがて梅尾に到着し小休止。ここから東は、稜線の高度差は50mほどしかなく淡々と進む。14時に岳山三角点ピークを踏むことができた。

この先の急勾配の下りに備え、足を休めた。加杖坂峠を目指し、10分程くだると、突然、東面が開ける。ここは、遠くに飯盛山・迷岳、その前に布引山、そしてさらに近くは入道ヶ塚・ナメラ山など同定し難いほどの山々が幾層にも連なる最高のビューポイントだ。立ち休憩をした後、いよいよ、難関の急勾配・細尾根下

りが始まる。風の寒さも吹っ飛ば緊張の連続だ。最後は林道へ向かって道なき谷筋を進み、全員無事バスの人となった。気候や地形の厳しさが、我々にとっては様々な体験となり、大満足の山行となった。(○下都正年)

京都西山 愛宕山

12月18日(出) ◎中 照行
*申込者少数で中止しました。

湖北 檜坂峠から河内山

12月18日(出) ◎村田智俊
*雨天のため中止しました。

奥高野 夏虫山

12月19日(日) ◎西上和
*バス定員未満で中止しました。

忘年山行 水無山

(鈴鹿を歩く346)
12月19日(日) 晴れ
(集合)国道477号蔵王ダム広場8:00
(車)専用ロッジ8:30 | 林道尾根取付9:00 | 水無山10:10 | 林道11:00 | ロッジ11:30 (昼食忘年会)14:00 (解散)

晴天で忘年山行にはもってこい。荷物をロッジに置き水無山へ出発。無名の急な尾根にアキレス腱が悲鳴をあげる。標高を上げると前日の霧が落ち葉に白い霜をつくり、水無のガレの斜面のブナの裸木が優しく包んで立っている。この静けさが大好きだ。下山後、焼肉・鍋・ぜんざい。串カツなどと豪華な山の宴会が待っていた。何よりはメンパアの無事と笑顔が山の大小を馳走だ。

(中澤美香子)

参加者

- 山内玄次 磯部 純
武村千鶴 金谷 昭 稲津謙治
高橋舜治 山田明男 白木やす子
木下朝子 栗本敏夫 奥野太一郎
水戸鉄治 山田景三 加納由紀子
神野孝允 栗岡克子 石田眞由美
小松志信 岩本彩子 小川富士雄
上馬秀夫 樫田勝利 中澤與司博
寺井博子 西村敏夫 中澤美香子
大西脩郎 炭田明美 一芝美知子
小林 修 堀 寿江 ○一芝義雄
○後藤康幸 ○岩野 明 (計34名)

参加者の山行記

●晴天の厳しい冷え込みのなか、集合場所へ車を走らせていると山頂がうっすら白くなった綿向山が目に入ってきた。水無山南峰から目にした美しい風景は樹水の花の雨乞岳、薄めの霧水の綿向山、そして御池岳の一部と鎌ヶ岳。綿向山に本格的な霧水の花が咲いた時にはぜひ登りたい

水無山だった。

下山後の昼食忘年会は暖かい日差しの下、ロッジの窓・扉を開放して室内とベランダにて、稲津氏の司会により岩野リーダーのご挨拶で始まった。参加者の多くの方が食材と調理器具を持参のうえ、各種鍋物、天ぷら、ぜんざい等をつくって下さり、私はただ食べる人となり満腹させてもらった。また、室内には「鈴鹿を歩く」山行のA4大に引き伸ばされたそれぞれの集合写真が数多く飾られていて見応えがあり、山行の楽しさが思い出された。食材を持参して調理して下さった皆様には厚く感謝を申し上げます。私は水無山への山行と忘年会の参加は初めてだった。

(西村敏夫)

●きのうとはうって変わって穏やかな朝日が好天を約束してくれた。忘年会会場まで林道を移動し、先ずは水無山へアタック。32名が林道脇550m付近の尾根に取り付く。いきなりの急登に体がついていけない、木に捕まり足を引っ張り上げる。きょうのリュックは軽い、ガスコンロ・コッヘル・水・ビールが無いからである。雑木を掻き分け920m付近の尾根に乗り、山頂を目指す。伊吹、御池、綿向が冬化粧している。鎌の穂先も健在だ。展望を楽しんだ後は、お待ちかね忘年会である。岩野リーダーの挨拶で開宴、焼肉、串カツ、

焼きそば、おでん、湯豆腐など手が届く調理され、皆の腹に収まる。もちろん、控えめではあるがアルコールも。山の合唱隊の歌声で最高潮。室内には、あの頃この頃の集合写真も展示されており、思い出は尽きない。

(中澤與司博)

南山城 良山・大焼山・万灯籠山

(火曜ハイク6)

12月21日(火) ●仲谷礼司
*雨天のため中止しました。

忘年山行
大窪 扇形山

12月23日(祝) くもり時々晴れ
(集合)近鉄榎原神宮前駅8・05~10(バス)河分神社9・10~カヤ小屋跡10・15
—第一鉄塔10・40—扇形山11・15(昼食)
11・40—小南峠12・45—河川温泉(入浴・バス)榎原神宮前駅15・20(電車)寿司店「まるみ」16・00(忘年会)17・45(解散)

少し寒いが雪も無く穏やかな山行日和。山頂を少しくだった鉄塔で初冬の風景と昼食を楽しみ、下山後は温泉で汗を流し、恒例の忘年会を楽しんだ。

参加者 植村信子 水本加津菜
志水明美 竹内正子 川村信子

入江 勲 三輪直文 松原眞由美
柄 照子 三井敏一 信吉 優
小栗大直 狩野東彦 中江南海雄
川俣 勲 中川善弘 山口敏明
森井 潔 辻中 貢 桜庭 栄
山本幸子 川上久堅 渡部和美
○竹田勝英 ○下郡正年 ○西上和和
(計26名)

忘年山行
花背交流の森 (京都北山歩き142)

12月23日(祝) くもりのち晴れ
(集合)JR京都駅8・00(バス)峰定寺9・20~45—三本杉10・10—こもればの森展望台11・20(昼食)11・45—緑風の森—天神の森—古道の森—林道ゲート12・45—センターエリア「翠峰荘」13・00(入浴・忘年会)15・50(バス)京都駅17・10(解散)

有名な「花背の三本杉」から交流の森へ登り、落ち葉道を散策した。センターエリアで入浴後、鳥すきで楽しい忘年会となった。地鶏肉も野菜も多く食べ切れないほどであった。

参加者 岡崎知子 大川直澄
中川光郎 兼子衣代 武部美美子
後藤智之 岩佐 修 岡本正明
里見禎生 若松朝子 中嶋日出男
小林 桂 西村文男 船本裕巳子
金森節子 遠藤 幸 久馬麻登珂
林 義朗 丸山敏之 ○宮野哲郎
○安倉正勝 ○村田智俊 (計22名)



扇形山三角点 (下都正年)



扇形山への急登 (下都正年)



水無山専用ロッジにて忘年会 (一芝義雄)



生駒山の展望広場にて (森井 潔)



扇形山にて (下都正年)

年末ロングコース 生駒 飯盛山から十三峠

12月26日 晴れ時々雪

(集合) JR 四条駅 8:00 - 四条駅神社
8:20 - 30 - 飯盛山 9:20 - 30 - 権現の
滝道 出合 10:00 - 室池碑 10:15 - 25 - 阪
奈道 高架橋 11:00 - 生駒山 12:45 (昼食)
13:20 - 14:00 - 大原山 14:15 - 25
- 鳴川峠 14:30 - 15:00 - 鐘の鳴る丘 15:10 - 20
- 十三峠 15:40 - 近鉄平群駅 17:05 (解散)

寒波がやってきた。歩くと温まる
が、生駒山が近づくと雪が舞ってき
て道が白くなった。年末でハイカー
も少なく出会う人もまばら、予定通
り平群駅へ17時に到着し、23時を歩
き今年の新ハイ山行を締めくくった。

参加者

- | | | |
|------|------|-------|
| 後藤智之 | 小池一郎 | 松原真由美 |
| 川村信子 | 鈴木恒男 | 村上美代子 |
| 三井紘一 | 狩野東彦 | 村岡雄志郎 |
| 森井 潔 | 中山 賢 | 西谷真実子 |
| 兼子衣代 | 宮崎靖久 | 吉岡うた子 |
| 池田繁子 | 小野和良 | 宮崎由美子 |
| 高橋舜治 | 加藤浩二 | 中嶋日出男 |
| 川戸せつ | 岡崎知子 | 名加恵美子 |
| 西嶋芳洋 | 大平 漸 | 佐々木輝子 |
| 萩野暢子 | 渡部和美 | 久保田玲子 |
| 林 義朗 | 三野 旭 | 小坂さゆり |
| 有吉桂三 | 小尾末吉 | 北村つねみ |
| 林 信男 | 西村静子 | 朝倉松雄 |
| 山田幸子 | 澁谷節枝 | 岩村春子 |
| 松本忠雄 | 川田洋子 | 木村太郎 |
| | | 小森外松 |

訂正とお詫び

●左記の通り訂正します。

116号(新春)

- *目次「松田俊男」→「松田敏男」
- *4ページ下段9行「ゆるやかな」
→「ゆるやか」
- *7ページ上段・ルート図上「千光寺」→「千手寺」
- *16ページ付近伊吹山の標高「1277・3」→「1377・3」
- *25ページ下段2、3行「先をらせして」→「先を失らせ」
- *26ページ写真説明「(右が黒壁)」
→「(中央が黒壁、右が蕎麦粒山)」
- *41ページ付近図「おおうじんぐうまえ」→「おおうみじんぐうまえ」
- 中段5行「(東側)らは」→「(東側)には」
- *61ページ南湖大山の参加者に「金谷 昭」を追加。計13名となる。

稲津謙治 竹田善英 ○宮野哲郎
○安倉正勝 ○村田智俊 (計52名)

(11・12月の参加者 延884名)



佐渡のカタクリ (金北山) 一芝義雄



佐渡のシラネアオイ (金剛山) 一芝義雄

セツブンソウ (丹波篠山 大山宮) 西村敏夫



原稿募集

会員募集

新ハイキングクラブ関西では次の要領で、原稿・写真を募集しています。

◇原稿用紙・ネガフィルムで、またはEメール(添付)でお送りください。

◇パソコン原稿の場合は、アータク(FD・CD)を同封ください。

紀行 3000字程度(400字詰718枚)

コースガイド 1500字程度(400字詰4枚)

随想 1900字程度(400字詰5枚)

*紀行・コースガイドは、地形図上の略図コピー、写真2〜3枚、文末に歩いた年月日・コースタイム・地形図名を明記してください。

*写真は未発表のもので、題目・撮影場所・撮影年月日を明記してください。

イラスト・カット 当該にふさわしいものを送ってください。

山行計画関連 リーダーの方は、登山対象の山の写真があれば、計画書に添付してお送りください。

山行例会関連 例会に参加された方は、写真・参加後の感想文(1000字程度)をお送りください(略・匿名は不可)。

原稿・写真の掲載使用料は、特別に当会より依頼したもの以外は、すべて無料扱いとなります。ご了承ください。

原稿はすべて新ハイキングクラブ関西へお送りください。

●「新ハイキングクラブ」は昭和21年発足以来、関東を中心に60年間余、好評のうちに活動しています。関西は平成3年秋発足で20年目に入りますが、すでに数千名の会員で活動しています。会員になれば当会のイベントに参加できます。多くの仲間達とハイキングを楽しみましょう。

会員には会報誌「新ハイ関西」(隔月刊・年6号発行)を毎月お届けします。

●係(リーダー)はすべて無償の奉仕で、各自分で切符を買い茶代を払い、宿泊料もすべてワリカンです。

●四季の自然に触れながらの山歩きからウォーキングまで、ハイキングを通じて若々しい心と健康をいつまでも持続するのはすばらしいことです。これから始めてみたい方、すでにベテランの方もみなさんご入会いただけます。

入会金 500円(ワッペン共)

年会費 3300円(送料共)

入会の申し込み込み(随時)は、この会誌に挿入の振替用紙をご利用ください。

●お友達の住所・氏名をハガキで紹介くだされば、「新ハイ関西」を参考資料として無料で送ります。

○山行係(リーダー)募集

経験のある方、やってみたいと思われ方は、新ハイキング関西までご連絡ください。「リーダー必携」をお送りします。

本号掲載広告索引

▲メーカー	表4
▲モンベル	表4
▲山用品店	表4
▲神戸サック	22
▲山の旅行社	表2
▲アルパインツアーサービス	表2
▲トラベル・ギャラリー旅の本棚	表3
▲毎日新聞旅行	表3
▲山岳書籍	46
▲ナカニシヤ出版	25

○新入会員紹介
新しいお仲間のみなさんです。
会員番号5593〜5618番まで
(敬称略)

【愛知】 土屋定義
高橋静子 野原知子

【滋賀】 谷澤晋二
八木卓治 八木爽子
森嶋靖子 高田京子

【京都】 竹中忠久 西村正滋
栗岡 康 加瀬三佐子
西口信代 板田晃司

【大阪】 越山隆信 三好満子
平社文則 中江憲子
鎌田和子 小原 修

【奈良】 野崎孝治 福井豆彦
田中重夫 大畑むつみ
田中智久

【兵庫】 太田澄榮
(26名)

◇バックナンバー
1号から116号(6・15・19・20号は品切れ)のバックナンバー在庫あります。ご希望の方は、挿入の振替用紙で誌代分を送金のおえお申し込みください。定価は33号までは450円、34号からは500円、64号からは530円、98号からは560円(送料は当会で負担)。

●次118号(5・6月)は4月15日配布

●本誌掲載の「参考付近図」は、国土地理院発行5万分の1、及び2万5千の1の地形図を使用して作成したものである。

新ハイキングクラブ関西
代表 村田智俊
(本部・編集室) 〒610-0121
京都府城陽市寺田大群 10-10
TEL(FAX 共)0774(53)2754
(振替口座) 新ハイキング関西
口座番号 01040-7-70356 番
http://web1kcn.jp/shinbaikansai
Eメール: shinbaikansai@kcn.jp

●DTP 西ケイエスティープロダクション
●印刷製本 西太洋社